

芸術系教科・科目における 目標、見方・考え方、高次の資質・能力について

検討項目⑤ 中核的な概念等を踏まえた個別の内容の選択・精選(3)

令和7年10月14日
総則・評価特別部会
(会議後修正版)

3. 今後の検討の進め方(案)

- 2. に示した基本的な考え方を踏まえ、今後の検討を以下の通り進めることについてどのように考えるか。

(1)各教科等の目標と「高次の資質・能力」のたたき台の暫定的な整理 (1月中を目途)

- ・各教科等WGにおいて、全教科等・科目について、目標及び見方・考え方、「高次の資質・能力」全体の一覧を修正の余地のあるたたき台として整理
※高等学校の専門教科・科目については科目数が非常に多いため柔軟に対応

(2)総則・評価特別部会及び教育課程企画特別部会における調整① (2月中を目途)

- ・総則・評価特別部会及び教育課程企画特別部会において、(1)で作成した一覧について議論を行い、論点整理の趣旨の実現の観点から必要な調整等について各WGに共有

(3)個別の資質・能力の検討と「高次の資質・能力」の精査 (3月中を目途)

- ・各教科等WGにおいて、整理した「高次の資質・能力」に基づき、より豊かな学習活動に繋がり、かつ、系統性等を損なわない範囲で、精選が可能な対象を慎重に特定しつつ、個別の資質・能力の整理を検討する。その際、表形式での示し方、「高次の資質・能力」の獲得に向けて「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るための余白が十分にあるかといった視点からも検討
- ・整理した個別の資質・能力の在り方を踏まえて、「高次の資質・能力」の妥当性を精査し、必要に応じた修正を行う
- ・併せて、「高次の資質・能力」を掴みやすい当該教科等の教科書の在り方について、内容の精選の在り方も含めて検討を行う

(4)総則・評価特別部会及び教育課程企画特別部会における調整② (時期は進捗に応じ検討)

- ・総則・評価特別部会及び教育課程企画特別部会において(3)のプロセスで修正した「高次の資質・能力」全体の一覧や、当該教科等における表形式による構造化の在り方の議論を行い、論点整理の趣旨の実現の観点から必要な調整等について各WGに共有

(5)各教科等WG、総則・評価特別部会における最終調整 (時期は進捗に応じ検討)

- ・総則・評価特別部会及び教育課程企画特別部会での議論などを踏まえ、WGでのまとめに向けた検討を実施
- ・総則・評価特別部会においては、各教科等WGの検討状況を踏まえつつ、各教科等の標準授業時数や標準単位数の在り方を踏まえたまとめの検討

目標及び見方・考え方等の改善の方向性①

令和7年11月20日
教育課程部会
芸術ワーキンググループ
資料1 p.8 (更新版)



芸術系教科における現状と課題例



改善の方向性（案）

第1回及び第2回WGにおける委員の意見や学習指導要領実施状況調査の分析などにより、芸術系教科として以下の現状と課題が考えられる。

- 我が国の文化芸術に関する教育の充実が求められていること
- 教師からの働きかけが強く、子供が自律的に学習を進められていない状況が一部に見られること
- 表現及び鑑賞の活動の相互の関連付けが適切に行われていない状況があること
- 児童生徒が芸術系教科・科目の学びの意義について、十分に実感できている状況に至っていないこと
- 芸術系教科・科目での学びを、豊かな社会の創造にどのようにつなげていけるのか

子供たちが正解を求めることなく、芸術のよさや面白さを感じようとする意識をもつことができていないのではないか

子供たちが諸感覚を働かせて感じたことを、知識を基に説明したり、教師が多様な子供の視点や考え方に目を向けることができているのではないか

子供たちに、学校教育で身に付けた資質・能力を生活や社会などへ関わらせていく視座が形成できていないのではないか

など

文化芸術基本法（平成13年12月7日法律第148号）（抄）

（学校教育における文化芸術活動の充実）

第二十四条 国は、学校教育における文化芸術活動の充実を図るため、**文化芸術に関する体験学習等文化芸術に関する教育の充実**、芸術家等及び文化芸術団体による学校における文化芸術活動に対する協力への支援その他の必要な施策を講ずるものとする。

令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査の結果の例

- ・「音楽の授業で学んだことは、私たちの生活や社会でいかすことができると思う」
→ 肯定的に回答する児童の割合が55.5%
- ・「図画工作の時間で学習したことを、ふだんの生活の中に生かしている」
→ 肯定的に回答する児童の割合が60.1%

第1回、第2回ワーキンググループにおける委員の意見の例

- ・子供自身が考えることができる指導が重要。指導過多でもなく放任でもなく、教師が指導することと子供が考えることとのバランスを考えることや、学習の過程を重視した指導が求められる。
- ・創造性は今むしろ社会との関わりにおいてベクトルは外に向かうのだということが非常に重要になってきている。
- ・子供自らが問いを立てて課題を解決できるような授業を考えることが大切。

現状と課題を踏まえ、目標及び見方・考え方、高次の資質・能力等について、以下の改善の方向性が考えられる。

- ① 捉えたり、感じたりしたことを、要素・特徴※や背景にある文化との関わりで理解したり思考・判断・表現したりすることができるようにすること（○）
※ 音楽を形づくっている要素、造形的な特徴、書を構成する要素
- ② 表現したいことをどのように形にできるか、他者に伝えることができるか、という自分の思いや考えをもつことができることや、諸感覚を働かせつつ身体性を伴った技能により表現することを重視（▲）
- ③ 表現及び鑑賞の学習において、正解は一つではなく、児童生徒一人一人のありようが尊重されるべきものであること（△、◇、▲、■）
- ④ 表現及び鑑賞の学習において、工夫したことや感じたことを伝え合うなどの言語活動等を通して、感じ方や考え方を深めるようにすること（■）
- ⑤ 他者とともに協働する学習を通じて、共感したり多様な視点で考えたりできるようにすること（■）
- ⑥ 生活や社会、文化などとの関わりや、意味や価値を見いだしたり、つくりだしたりするなど豊かな社会の創造や幸福な人生につなげていくことについて示すこと（◇）

（次期学習指導要領に向けた基本的な考え方）

- ・主体的・対話的で深い学びの実装（○）
- ・多様性の包摂（△）
- ・実現可能性の確保
- ・自らの人生の舵取りをする力と民主的な社会の創り手育成（◇）

（学びに向かう力、人間性等の今後の整理イメージ）

- ・学びを方向付ける人間性
- ・初発の思考や行動を起こす力・好奇心（▲）
- ・他者との対話や協働（■）
- ・学びの主体的な調整（◆）

※主として考えられる関係性を記号で示している

論点 1－1 目標及び見方・考え方の在り方

- 「目標」及び「見方・考え方」の在り方について、改善の方向性（案）を踏まえ、育成すべき資質・能力を整理することとしてはどうか（P.15～39参照）

【高等学校芸術科の教科目標】

- 高等学校芸術科の教科目標については、以下のような改善を図ってはどうか（P.27）
 - ・ 知識及び技能については、芸術科に属する科目に対応する特質ではなく、**社会における芸術分野との関連を重視**するとともに、**幅広く芸術文化として捉える**という趣旨を明確にできるよう修正
（従前案）「芸術に関する各科目の特質について理解」→（修正案）「各芸術分野の特質や芸術文化について理解」
 - ・ 思考力、判断力、表現力等については、**作品がもつメッセージ性や文化的・歴史的意義、社会への影響力などをより意識**できるよう修正
（従前案）「芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができる」→（修正案）「価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができる」

※委員の御意見

- ・ 高等学校芸術科として、見方・考え方をベースとしながら知識及び技能として身に付ける観点を盛り込めるとよいのではないか
- ・ 表現して終わりではなく、メッセージを伝えるというところまで求められるのではないか

論点 1－1 目標及び見方・考え方の在り方（続き）

【高等学校芸術科に属する各科目（音楽、美術、工芸、書道）のⅠ～Ⅲの科目目標】

- Ⅱ及びⅢを付した科目は、Ⅰを付した科目を履修した生徒が、興味・関心等に応じて発展的な学習を行うことを通して、個性豊かな芸術に関する資質・能力を伸ばし、高めることができるように示すこととしてはどうか
- **捉えたり感じたりしたことを、要素・特徴や背景にある文化との関わりで理解したり思考・判断・表現したりすることを重視（改善の方向性（案）①）**

記述案の例

〈知識及び技能〉

教科目標：「各芸術分野の特質や芸術文化について理解する」

「曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解する」（音楽Ⅰ）

→「曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深める」（音楽Ⅱ）

→「曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性について理解する」（音楽Ⅲ）

「対象や事象を捉える造形的な視点や、美術の働き、美術文化について幅広く理解する」（美術Ⅰ）

→「対象や事象を捉える造形的な視点や、美術の働き、美術文化について理解を深める」（美術Ⅱ）

→「対象や事象を捉える造形的な視点や、美術の働き、美術文化について理解を深める」（美術Ⅲ）

「対象や事象を捉える造形的な視点や、工芸の働き、工芸の伝統と文化について幅広く理解する」（工芸Ⅰ）

→「対象や事象を捉える造形的な視点や、工芸の働き、工芸の伝統と文化について理解を深める」（工芸Ⅱ）

→「対象や事象を捉える造形的な視点や、工芸の働き、工芸の伝統と文化について理解を深める」（工芸Ⅲ）

「書の表現の方法や形式、多様性、書の伝統と文化について幅広く理解する」（書道Ⅰ）

→「書の表現の方法や形式、多様性、書の伝統と文化について理解を深める」（書道Ⅱ）

→「書の表現の方法や形式、多様性、書の伝統と文化について理解を深める」（書道Ⅲ）

論点 1-1 目標及び見方・考え方の在り方（続き）

【高等学校芸術科に属する各科目（音楽、美術、工芸、書道）のⅠ～Ⅲの科目目標（続き）】

- **自分の思いや考えをもつことができることや、諸感覚を働かせつつ身体性を伴った技能により表現できることを重視（改善の方向性（案）②）**

記述案の例

〈知識及び技能〉

教科目標：「意図に基づいて表現するための技能を身に付ける」

「創意工夫を生かし曲や音楽を創造的に表現するために必要な技能を身に付ける」（音楽Ⅰ、Ⅱ）

→「創意工夫や表現上の効果を生かし、曲や音楽を創造的に表現するために必要な技能を身に付ける」（音楽Ⅲ）

「意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表す…ことができる」（美術Ⅰ）

→「意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表す…ことができる」（美術Ⅱ）

→「意図に応じて表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表す…ことができる」（美術Ⅲ）

「発想や構想したことを基に創造的に表す…ことができる」（工芸Ⅰ）

→「意図に応じて制作方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表す…ことができる」（工芸Ⅱ）

→「意図に応じて制作方法を追求し、個性を生かして創造的に表す…ことができる」（工芸Ⅲ）

「感興や意図を創造的に表したり、…するための基礎的な技能を身に付ける」（書道Ⅰ）

→「感興や意図を創造的、個性的に表したり…するための技能を身に付ける」（書道Ⅱ、Ⅲ）

記述案の例

〈思考力、判断力、表現力等〉

教科目標：「創造的な表現の工夫について考え」

「自己のイメージに基づいた音楽表現について考え表現意図をもつ」（音楽Ⅰ）

→「個性豊かな音楽表現について考え表現意図をもつ」（音楽Ⅱ）

→「音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かな音楽表現について考え表現意図をもつ」（音楽Ⅲ）

「創造的に発想し構想を練ったり」（美術Ⅰ）

→「個性豊かに発想し構想を練ったり」（美術Ⅱ）

→「個性を生かして発想し構想を練ったり」（美術Ⅲ）

「心豊かに発想し構想を練ったり」（工芸Ⅰ）

→「思いや願いなどから個性豊かに発想し構想を練ったり」（工芸Ⅱ）

→「思いや願いなどから個性を生かして発想し構想を練ったり」（工芸Ⅲ）

「意図に基づいて創造的に構想し」（書道Ⅰ）

→「意図に基づいて創造的、個性的に構想し」（書道Ⅱ、Ⅲ）

論点 1－1 目標及び見方・考え方の在り方（続き）

【高等学校芸術科に属する各科目（音楽、美術、工芸、書道）のⅠ～Ⅲの科目目標（続き）】

- **生徒一人一人のありようを尊重した学習活動の尊重**（改善の方向性（案）③）
- **伝え合うなどの言語活動等を通して、感じ方や考え方を深めるようにする**（改善の方向性（案）④）
- **他者とともに協働する学習を通じて、共感したり多様な視点で考えたりできるようにする**（改善の方向性（案）⑤）

記述案の例

〈学びに向かう力、人間性等〉

「主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み」（音楽Ⅰ）

→「主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み」（音楽Ⅱ、Ⅲ）

「主体的・協働的に美術の幅広い創造活動に取り組み」（美術Ⅰ）

→「主体的・協働的に美術の創造的な諸活動に取り組み」（美術Ⅱ、Ⅲ）

「主体的・協働的に工芸の幅広い創造活動に取り組み」（工芸Ⅰ）

→「主体的・協働的に工芸の創造的な諸活動に取り組み」（工芸Ⅱ、Ⅲ）

「主体的・協働的に書道の幅広い創造活動に取り組み」（書道Ⅰ）

→「主体的・協働的に書道の創造的な諸活動に取り組み」（書道Ⅱ、Ⅲ）

目標及び見方・考え方の在り方⑤

論点 1－1 目標及び見方・考え方の在り方（続き）

【高等学校芸術科に属する各科目（音楽、美術、工芸、書道）のⅠ～Ⅲの科目目標（続き）】

● 豊かな社会の創造や幸福な人生に繋げていける教育の充実（改善の方向性（案）⑥）

記述案の例

〈学びに向かう力、人間性等〉

教科目標：「生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、芸術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う」

「生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、創造的に音楽や音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養い、豊かな情操を培う」（音楽Ⅰ）

→「生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、創造的に音楽や音楽文化と関わり親しんでいくとともに、音楽によって心豊かな生活や社会を築いていく態度を養い、豊かな情操を培う」（音楽Ⅱ）

→「生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、音楽や音楽文化を尊重し、音楽によって心豊かな生活や社会を築いていく態度を養い、豊かな情操を培う」（音楽Ⅲ）

「生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う」（美術Ⅰ）

→「生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う」（美術Ⅱ）

→「生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、美術文化を尊重し、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う」（美術Ⅲ）

「生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う」（工芸Ⅰ）

→「生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う」（工芸Ⅱ）

→「生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、工芸の伝統と文化を尊重し、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う」（工芸Ⅲ）

「生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う」（書道Ⅰ）

→「生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性をさらに高め、書の伝統と文化を尊重し、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う」（書道Ⅱ）

→「生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化を尊重し、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う」⁷（書道Ⅲ）

論点 1－1 目標及び見方・考え方の在り方（続き）

【見方・考え方】

- **見方・考え方を教科の系統ごとに各学校段階を通して共通に示す**こととする。また、生活や社会などとの関わりは目標において明示するなど**全体の書きぶりを端的に示す**とともに、教科の特性に応じて**想像力を働かせること**、物事を捉える視点として**文化を重視すること**を踏まえ、当初の案について以下のように修正してはどうか

・芸術（高等学校）

（従前案）

音や音楽、対象や事象、文字や書を、音楽を形作っている要素とその働き、造形的、書を構成する要素やそれらが相互に関係する働きの視点で捉え、意味や価値を見いだしたりつくりだしたりすること

→（修正案）

感性や**想像力**を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、**文化などの視点**で捉え、芸術の意味や価値を追求すること

・音楽

（従前案）

感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、生活や社会、伝統や文化などに関わらせて、自分や他者にとっての意味や価値を見いだすこと

→（修正案）

感性や**想像力**を働かせ、対象や事象を、音や音楽、**文化などの視点**で捉え、意味や価値を見いだすこと

・図画工作、美術、工芸

（従前案・図画工作）

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、生活や社会、文化と関わり、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと

（従前案・美術・工芸）

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、生活や社会、文化と関わり、自分としての意味や価値をつくりだすこと

→（修正案・図画工作・美術・工芸）

感性や**想像力**を働かせ、対象や事象を、造形的、**文化的な視点**で捉え、意味や価値をつくりだすこと

・書道

（従前案）

感性を働かせ、文字や書を、書を構成する要素やそれらが相互に関連する働きの視点で捉え、書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化などとの関わりから、自分や他者にとっての意味や価値を見いだす

→（修正案）

感性を働かせ、文字や書を、書の美を構成する要素とその働き、**伝統と文化などの視点**で捉え、意味や価値を追求すること

論点 1－2 内容の表形式化

- 内容の表形式化について、並列パターン（内容の系統性が明確で、「知・技」の内容のまとまりに対応した固有の「思・判・表」が想定できる教科）と並行パターン（「知・技」が全体として「思・判・表」の深まりを助ける構造の教科）が示されている
- 芸術系教科・科目においては、知識を得ることによって、考え方や捉え方の豊かさにつながり学びの深まりが生まれる。知識を基に思いや意図をもったり、発想や構想をしたりしたことを、身体を用いながら技能を働かせることによって表現したり、鑑賞したりする。この過程を往還しながら資質・能力を習熟させていく点に特徴がある。このような点は「知識及び技能」が全体として「思考力、判断力、表現力等」の深まりを助ける構造に近いものとして考えることができることを踏まえると、**並行パターンが適当ではないか**

内容の表形式化のイメージ（小学校音楽の例）

- 内容の表形式化について、並列パターン（内容の系統性が明確で、「知・技」の内容のまとまりに対応した固有の「思・判・表」が想定できる教科）と並行パターン（「知・技」が全体として「思・判・表」の深まりを助ける構造の教科）が示されている
- 芸術系教科・科目においては、**知識を得ることによって、考え方や捉え方の豊かさにつながり学びの深まりが生まれる。知識を基に思いや意図をもったり、発想や構想をしたりしたことを、身体を用いながら技能を働かせることによって表現したり、鑑賞したりする。この過程を往還しながら資質・能力を習熟させていく点に特徴**がある。このような点は「知識及び技能」が全体として「思考力、判断力、表現力等」の深まりを助ける構造に近いものとして考えることができることを踏まえると、**並行パターンが適当ではないか**

◎ 内容

領域	区分	高次の資質・能力		第1学年及び 第2学年相当	第3学年及び 第4学年相当	第5学年及び 第6学年相当
表現	歌唱・ 器楽	【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】 音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲の特徴を生かした表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって歌唱や器楽による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる	〔共通事項〕	・XXXXXX	・XXXXXX	・XXXXXX
			1)	・XXXXXX	・XXXXXX	・XXXXXX
			2)	・XXXXXX	・XXXXXX	・XXXXXX
		【知識及び技能に関する統合的な理解】 曲の特徴などを個々の感じ方や考え方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図を歌唱や器楽で表現できることを理解している	〔共通事項〕	・XXXXXX	・XXXXXX	・XXXXXX
			1)	・XXXXXX	・XXXXXX	・XXXXXX
	音楽 づくり	【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】 音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、発想を得たり思いや意図をもったりし、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる	〔共通事項〕	・XXXXXX	・XXXXXX	・XXXXXX
			1)	・XXXXXX	・XXXXXX	・XXXXXX
		【知識及び技能に関する統合的な理解】 個々の感じ方や考え方等に応じて音の組み合わせやつなげ方などについて捉えながら、即興的に音を出して試したり音楽の仕組みを用いたりすることにより、発想を得たり思いや意図をもったりして音楽をつくって表現できることを理解している	〔共通事項〕	・XXXXXX	・XXXXXX	・XXXXXX
			1)	・XXXXXX	・XXXXXX	・XXXXXX
鑑賞		【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】 音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲全体を見通しながら聴き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を見だし音楽を聴き深めることができる	〔共通事項〕	・XXXXXX	・XXXXXX	・XXXXXX
			1)	・XXXXXX	・XXXXXX	・XXXXXX
			2)	・XXXXXX	・XXXXXX	・XXXXXX
		【知識及び技能に関する統合的な理解】 個々の感じ方や考え方等に基づいて音楽の特徴などを捉えることにより、よさなどを見いだすことができることを理解している	〔共通事項〕	・XXXXXX	・XXXXXX	・XXXXXX
			1)	・XXXXXX	・XXXXXX	・XXXXXX
			2)	・XXXXXX	・XXXXXX	・XXXXXX

論点 1－3 高次の資質・能力の在り方

【区分について】

- 高次の資質・能力の示し方の基本的なまとまりとして、芸術系教科・科目に共通して「A表現」及び「B鑑賞」の2つの領域に整理したうえで、音楽、図画工作、美術、工芸では教科・科目の特質や現状における課題を踏まえ、区分を設けることとしてはどうか

〔課題〕

（音楽）小学校で歌唱及び器楽で同一の曲を扱う場合に、歌唱と器楽の事項を別々に位置付けるなど、焦点化した効果的な指導や評価が行われにくい など
（図画工作、美術、工芸）表現や鑑賞の活動自体が目的となり、育成を目指す資質・能力が明確になっていない指導が見られる など

- 区分の名称について、高次の資質・能力の内容の意図がより分かりやすく明確になり、学校段階の接続を考慮して示していくこととしてはどうか

・音楽

〈小学校〉「歌唱・器楽」、「音楽づくり」 ※「A表現」

〈中学校、高等学校〉「歌唱」、「器楽」、「創作」 ※「A表現」

・図画工作、美術、工芸

〈小学校 図画工作〉「造形遊び」、「絵や立体、工作」 ※「A表現」及び「B鑑賞」

〈中学校 美術〉「自分と美術」、「身近な生活や社会と美術」 ※「A表現」及び「B鑑賞」

〈高等学校 美術〉「自分と美術」、「社会と美術」 ※「A表現」及び「B鑑賞」

〈高等学校 工芸〉「身近な生活と工芸」、「社会と工芸」 ※「A表現」及び「B鑑賞」

（図画工作）

現行において内容のまとまりとしている活動を仮に区分名としている。造形遊びをする活動、絵や立体、工作に表す活動がその後の学校段階へ接続していくことを踏まえつつ、学びの方向性を考慮し、引き続き慎重に検討していく

（美術、工芸）

区分名については内容事項も含めて引き続き検討していく

論点 1－3 高次の資質・能力の在り方（続き）

【知識及び技能に関する統合的な理解の文末記述について】

- 前回WGの議論を踏まえ、以下のように考え方を整理してはどうか。
- 「知識及び技能に関する統合的な理解」については、個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化され、他の学習や生活の場面でも活用できるようになった状態を指す。
- 例えば芸術系教科・科目の表現領域においては、個別の知識や技能が相互に関連付けられ一体となり、自分の思いや意図、発想や構想をしたことに基づいて表現できる状態に至ることを示している。
- 芸術系教科の特性として、例えば音楽の器楽においては音色と奏法の関係のように、音の出し方を知っているだけでなく、身体を使って繰り返し表現をすることを通して、実際に思いや意図を表現するために活用できる状態に至る。言語化して理解できることと、言語化はできないが身に付けることができることがあり、指導においてもこのことに留意することが必要である。
- なお、文末は「理解している」としているが、これは「知識」と「技能」を統合した状態を理解するものであり、「技能」を身に付けずに頭で理解するものであるといった誤解をされないよう、丁寧に説明していく必要がある。

（＊文末の表記は、今後、全教科等共通の整理で多少変わることは考えられる）

「資質・能力の深まり」と「資質・能力の一体的育成」の可視化による「深い学び」の具現化

- 知識の理解も、それが生きて働くように深く学ぶことが重要。思考力、判断力、表現力等も、社会や生活で直面する未知の状況でも課題解決に繋げていけるよう「質」を高めることが重要（**資質・能力の「深まり」**）
- ある程度の知識・技能なしに思考・判断・表現することは難しいし、思考・判断・表現を伴う学習活動なしに、知識の深い理解と技能の確かな定着は難しい（**資質・能力の「一体的育成」**）
➡こうした「**資質・能力の深まり**」と「**資質・能力の一体的育成**」を学習指導要領上で可視化することにより、**資質・能力の関係性の理解や、それらを一体的に育成するための教師の単元づくりを助け、「深い学び」を授業で具現化しやすくする**

＜生きて働く＞

知識及び技能

他の学習や生活の場面でも活用できる

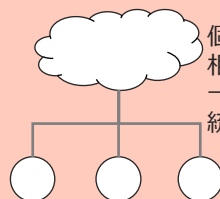
高次の資質・能力

知識及び技能に関する統合的な理解

個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化され、統合的な理解となった姿

(例) 関数を使えば未知の状況を予測できる

資質・能力の
「深まり」の
可視化



個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化されながら統合的に理解される

資質・能力の
「一体的育成」
の可視化



個別の知識や技能

(例) ・比例・反比例の理解
・一次方程式の解き方
・二元一次方程式を関数としてみなせることの理解
・現実の事象を関数でモデル化できることの理解
・二次関数でモデル化できる事象があることの理解

＜未知の状況にも対応できる＞

思考力、判断力、表現力等

知識・技能を活用しながら、未知の場面でも課題を解決できる

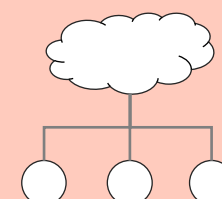
高次の資質・能力

思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮

複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を組み合わせたり選んだりして総合的に働かせた姿

(例) 現実の事象を数式でモデル化し、未知の状況を予測して、具体的な解決策を選択する

資質・能力の
「深まり」の
可視化



複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を総合的に働かせる

個別の思考力、判断力、表現力等

(例) ・二つの数量の変化・対応関係を見だし、式やグラフを用いて考察する
・現実の事象にある二つの数量の関係を関数と仮定して処理したりその結果に基づいて判断する

芸術系教科・科目における高次の資質・能力の関係性について

知識及び技能

目標

思考力、判断力、
表現力等

高次の資質・能力

表現領域

鑑賞領域

知識及び技能に関する
統合的な理解

個別の知識や技能が相互に関連付けられ一体となり、自分の思いや意図、発想や構想したことに基づいて表現できる状態
(例：小学校音楽「A表現」歌唱・器楽「思いや意図を歌唱や器楽で表現できること」など)

思考力、判断力、表現力等の
総合的な発揮

個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化され、統合的な理解となった姿

複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を組み合わせたり選んだりして総合的に働かせた姿

知識及び技能に関する
統合的な理解

個別の知識や技能が相互に関連付けられ一体となり、よさなどを見いだしたり新しい見方や感じ方をつくりだしたりするなどして鑑賞できる状態
(例：小学校音楽「B鑑賞」「よさなどを見いだすことができること」など)

思考力、判断力、表現力等の
総合的な発揮

個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化され、統合的な理解となった姿

複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を組み合わせたり選んだりして総合的に働かせた姿

個別の知識
個別の技能
【事項レベル】

知識

知識

技能

技能

知識

知識

技能

技能

個別の思考力、
判断力、表現力等
【事項レベル】

思、
判、
表等

思、
判、
表等

思、
判、
表等

思、
判、
表等

個別の知識
個別の技能
【事項レベル】

知識

知識

技能

技能

知識

知識

技能

技能

個別の思考力、
判断力、表現力等
【事項レベル】

思、
判、
表等

思、
判、
表等

思、
判、
表等

思、
判、
表等

※鑑賞の技能については、教科特性を踏まえて今後検討

内容

小学校音楽科の目標見直し

現行の記載

【小学校学習指導要領】

◎ 音楽科の目標

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。	音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。

◎ 解説の「音楽的な見方・考え方」

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きで捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などに関連付けること

改善案（たたき台）

※今後の内容等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

◎ 目標

表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

知識及び技能 (案)	思考力、判断力、表現力等 (案)	学びに向かう力、人間性等 (案)
曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、 <u>曲や音楽を創造的に表現するために必要な技能を身に付けるようにする</u>	音楽表現について考え思いや意図をもったり、曲や演奏のよさや楽しさなどを見いだしながら味わって聴いたりすることができるようにする	楽しさを味わいながら主体的・協働的に音楽活動に取り組み、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、 <u>創造的に音楽に関わり親しむ態度を養い、豊かな情操を培う</u>

◎ 見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

中学校音楽科の目標見直し

現行の記載

【中学校学習指導要領】

◎音楽科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

曲想と音楽の構造や背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

思考力、判断力、表現力等

音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。

学びに向かう力、人間性等

音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

◎解説の「音楽的な見方・考え方」

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること

改善案（たたき台）

※今後の内容等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

◎目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

知識及び技能 (案)

曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、曲や音楽を創造的に表現するために必要な技能を身に付けるようにする

思考力、判断力、表現力等 (案)

表したい音楽表現について考え思いや意図をもったり、曲や演奏の価値などを考えながら音楽を味わって聴いたりすることができるようにする

学びに向かう力、人間性等 (案)

楽しさを味わいながら主体的・協働的に音楽活動に取り組み、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、創造的に音楽や音楽文化に関わり親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う

◎見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

高次の資質・能力の内容のイメージ（小学校音楽①）

音楽（小学校）

思考力、判断力、表現力等

高次の資質・能力について、

- ①音楽科の目標や本質的な意義（見方・考え方）から演繹的に導かれる側面 と、
 - ②個別の学習内容をより深く習得するために帰納的に導かれる側面
- の二面性を踏まえ、検討いただきたい

目標

思考力、判断力、表現力等

音楽表現について考え思いや意図をもったり、曲や演奏のよさや楽しさなどを見いだしながら味わって聴いたりすることができるようにする

内容

領域	区分	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	歌唱・器楽	音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲の特徴を生かした表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって歌唱や器楽による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考える ・思いや意図をもち
	音楽づくり	音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、発想を得たり思いや意図をもったりし、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考える ・音楽づくりの発想を得る ・思いや意図をもち
鑑賞		音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲全体を見通しながら聴き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を見いだし音楽を聴き深めることができる	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考える ・曲や演奏のよさなどを見い出す

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

高次の資質・能力の内容のイメージ（小学校音楽②）

音楽（小学校）

知識及び技能

目標

知識及び技能

曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、曲や音楽を創造的に表現するために必要な技能を身に付けるようにする

内容

領域	区分	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	歌唱・器楽	曲の特徴などを個々の感じ方や考え方等に基づいて <u>実感を伴って捉えながら</u> 、状況や課題に応じて <u>身体の使い方を調節することにより</u> 、思いや意図を歌唱や器楽で表現できることを理解している	〔共通事項〕 ・音楽を形づくっている要素について理解する ・音符、休符、記号や用語について理解する ・曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解する ・声や楽器の音色、響きと歌い方や演奏の仕方に関わりについて理解する ・聴唱や視唱、聴奏や視奏する技能を身に付ける ・発音、発声、奏法の技能を身に付ける ・声や音を合わせて演奏する技能を身に付ける
	音楽づくり	個々の感じ方や考え方等に応じて音の組み合わせやつなげ方などについて捉えながら、 <u>即興的に音を出して試したり音楽の仕組みを用いたりすることにより</u> 、 <u>発想を得たり思いや意図をもったりして音楽をつくって表現できることを理解している</u>	〔共通事項〕 ・音楽を形づくっている要素について理解する ・音符、休符、記号や用語について理解する ・音の響きやそれらの組み合わせの特徴について理解する ・音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴について理解する ・音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付ける ・音楽の仕組みを用いて音楽をつくる技能を身に付ける
鑑賞		個々の感じ方や考え方等に基づいて音楽の特徴などを捉えることにより、 <u>よさなどを見いだすことができることを理解している</u>	〔共通事項〕 ・音楽を形づくっている要素について理解する ・音符、休符、記号や用語について理解する ・曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解する

高次の資質・能力について、

- ①音楽科の目標や本質的な意義（見方・考え方）から演繹的に導かれる側面 と、
- ②個別の学習内容をより深く習得するために帰納的に導かれる側面の二面性を踏まえ、検討いただきたい

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

高次の資質・能力の内容のイメージ（中学校音楽①）

音楽（中学校）

思考力、判断力、表現力等

目標

思考力、判断力、表現力等

表したい音楽表現について考え思いや意図をもったり、曲や演奏の価値などを考えながら音楽を味わって聴いたりすることができるようになる

内容

領域	区分	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	歌唱	音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲の特徴を生かし自分のイメージと関わらせた表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって歌唱による表現がもつ意味や価値について考え、 <u>音楽表現を深めることができる</u>	〔共通事項〕 ・知覚したことと感受したことの関わりについて考える ・思いや意図をもち
	器楽	音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲の特徴を生かし自分のイメージと関わらせた表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって器楽による表現がもつ意味や価値について考え、 <u>音楽表現を深めることができる</u>	〔共通事項〕 ・知覚したことと感受したことの関わりについて考える ・思いや意図をもち
	創作	音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、課題や条件に沿って音楽をつくるための思いや意図をもち、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値について考え、 <u>音楽表現を深めることができる</u>	〔共通事項〕 ・知覚したことと感受したことの関わりについて考える ・思いや意図をもち
鑑賞		音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲や演奏を自分と関わらせながら聴き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を見だし、音楽を聴き深めることができる	〔共通事項〕 ・知覚したことと感受したことの関わりについて考える ・音楽を評価しながら聴く

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

高次の資質・能力の内容のイメージ（中学校音楽②）

音楽（中学校）

知識及び技能

目標

知識及び技能

曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、曲や音楽を創造的に表現するために必要な技能を身に付けるようにする

内容

高次の資質・能力について、

- ①音楽科の目標や本質的な意義（見方・考え方）から演繹的に導かれる側面 と、
- ②個別の学習内容をより深く習得するために帰納的に導かれる側面の二面性を踏まえ、検討いただきたい

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

領域	区分	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	歌唱	曲の特徴などを個々の感じ方や考え方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図を歌唱で表現できることを理解している	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素とそれらに関わる記号や用語について理解する ・曲想と音楽の構造との関わり、声の音色や響きと曲種に応じた発声との関わりなどについて理解する ・発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能などを身に付ける
	器楽	曲の特徴などを個々の感じ方や考え方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図を器楽で表現できることを理解している	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素とそれらに関わる記号や用語について理解する ・曲想と音楽の構造との関わり、楽器の音色や響きと奏法との関わりなどについて理解する ・楽器の奏法、身体の使い方などの技能などを身に付ける
	創作	音や音同士の関係の特徴などを個々の感じ方や考え方等に応じて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて音を選択したり組み合わせたりすることにより、思いや意図を創作で表現できることを理解している	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素とそれらに関わる記号や用語について理解する ・音のつながり方、音素材、音の重なり方、構成上の特徴などについて理解する ・課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける
鑑賞		音楽の特徴や背景などを個々の感じ方や考え方等に基づいて実感を伴って捉えることにより、よさや美しさなどを見いだすことができることを理解している	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素とそれらに関わる記号や用語について理解する ・曲想と音楽の構造との関わり、音楽の特徴とその背景となる歴史や文化などとの関わりなどについて理解する

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

小学校図画工作科の目標見直し

現行の記載

【小学校学習指導要領】

◎ 図画工作科の目標

表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくり表したりすることができるようにする。

思考力、判断力、表現力等

造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

学びに向かう力、人間性等

つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。

◎ 解説の「造形的な見方・考え方」

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと

改善案（たたき台）

※今後の内容等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

◎ 目標

表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

知識及び技能 （案）

対象や事象を捉える造形的な視点や造形の働きについて理解するとともに、創造的につくりだしたり見たりすることができるようにする

思考力、判断力、表現力等 （案）

造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする

学びに向かう力、人間性等 （案）

つくりだす喜びを味わいながら主体的・協働的に活動に取り組むとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う

◎ 見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

中学校美術科の目標見直し

現行の記載

【中学校学習指導要領】

◎美術科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

◎解説の「造形的な見方・考え方」

よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力である感性や、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと

改善案（たたき台）

※今後の内容等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

◎目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

知識及び技能 (案)	思考力、判断力、表現力等 (案)	学びに向かう力、人間性等 (案)
対象や事象を捉える造形的な視点や、美術の働き、美術文化について理解するとともに、 <u>発想や構想したことを基に創造的に表すことや、美術作品などの情報を読み取ることができる</u> ようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、 <u>創造的に発想し構想を練ったり、美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることが</u> できるようにする	創造活動の喜びを味わいながら、主体的・協働的に美術の活動に取り組むとともに、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

◎見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

高次の資質・能力の内容のイメージ（小学校図画工作①）

図画工作

思考力、判断力、表現力等

目標

高次の資質・能力について、

- ①図画工作科の目標や本質的な意義（見方・考え方）から演繹的に導かれる側面 と、
- ②個別の学習内容をより深く習得するために帰納的に導かれる側面の二面性を踏まえ、検討いただきたい

思考力、判断力、表現力等

造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする

内容

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

領域	区分	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	造形遊び (仮)	形や色などを基に自分のイメージをもちながら、材料や場所などを基に、 <u>豊かに造形的な活動を思い付いたり、どのように活動するかについて考えたり</u> することができる	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形や色などを基に、自分のイメージをもつ ・身近な自然物や人工の材料や場所などを基に造形的な活動を思い付くことや、どのように活動するかについて考えること
	絵や立体、工作 (仮)	形や色などを基に自分のイメージをもちながら、 <u>感じたことや想像したことなどから、豊かに表したいことを見付けたり、どのように表すかについて考えたり</u> することができる	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形や色などを基に、自分のイメージをもつ ・感じたこと、想像したことなどから表したいことを見付けることや、どのように表すかについて考えること
鑑賞		形や色などを基に自分のイメージをもちながら、作品などの造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて <u>感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げたり深めたり</u> することができる	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形や色などを基に、自分のイメージをもつ ・自分たちの作品や親しみのある美術作品などのよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

※区分名については、今後検討をしていく予定。

高次の資質・能力の内容のイメージ（小学校図画工作②）

図画工作

知識及び技能

目標

高次の資質・能力について、

- ①図画工作科の目標や本質的な意義（見方・考え方）から演繹的に導かれる側面 と、
- ②個別の学習内容をより深く習得するために帰納的に導かれる側面
の二面性を踏まえ、検討いただきたい

知識及び技能

対象や事象を捉える造形的な視点や造形の働きについて理解するとともに、創造的につくったり見たりすることができるようにする

内容

領域	区分	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	造形遊び (仮)	自分の感覚や行為を通して造形的な特徴などを捉えながら、材料や用具を使い、活動を工夫してつくることにより、創造的に表現できることを理解している	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の感覚や行為を通して、形や色などや、造形の働きについて理解する ・材料や用具を活用するとともに、材料や用具についての経験を生かし、活動を工夫してつくなどの技能に関する事項を身に付ける
	絵や立体、工作 (仮)	自分の感覚や行為を通して造形的な特徴などを捉えながら、材料や用具を使い、 <u>表したいことに合わせて表し方を工夫して表すことにより、創造的に表現できることを理解している</u>	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の感覚や行為を通して形や色などや、造形の働きについて理解する ・材料や用具を活用するとともに、材料や用具についての経験を生かし、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すなどの技能に関する事項を身に付ける
鑑賞		自分の感覚や行為を通して造形的な特徴などを捉えながら、作品などを工夫して見ることにより、 <u>創造的に鑑賞できることを理解している</u>	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の感覚や行為を通して、形や色などや、造形の働きについて理解する ・自分たちの作品や、親しみのある美術作品などを、経験を生かし、体全体を働かせ、方法を工夫して見る

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

高次の資質・能力の内容のイメージ（中学校美術①）

美術（中学校）

思考力、判断力、表現力等

高次の資質・能力について、

- ①美術科の目標や本質的な意義（見方・考え方）から演繹的に導かれる側面 と、
- ②個別の学習内容をより深く習得するために帰納的に導かれる側面
の二面性を踏まえ、検討いただきたい

目標

思考力、判断力、表現力等

造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、創造的に発想し構想を練ったり、美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

内容

領域	区分	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	自分と美術（仮）	対象や事象を自分との関わりの視点に立って見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出し、豊かに発想したり構想を練ったりすることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出す ・創造的な構成を工夫し、表現の構想を練る
	身近な生活や社会と美術（仮）	対象や事象を身近な生活や社会的な視点に立って見つめ、目的や条件などを基に主題を生み出し、豊かに発想したり構想を練ったりすることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・構成や装飾、伝える、使う目的や条件などを基に主題を生み出す ・調和のとれた美しさなどを考えて表現の構想を練る
鑑賞	自分と美術（仮）	自分との関わりの視点に立って美術作品などを見つめ、造形的なよさや美しさなどを<u>感じ取り</u>、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を深めることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などを考えて、見方や感じ方を深める
	身近な生活や社会と美術（仮）	身近な生活や社会的な視点に立って美術作品などを見つめ、目的や機能などの調和のとれた美しさなどを<u>感じ取り</u>、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を深めることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や機能との調和のとれた美しさなどを<u>感じ取り</u>、作者の心情、表現の意図と工夫などを考えて、見方や感じ方を深める

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

高次の資質・能力の内容のイメージ（中学校美術②）

美術（中学校）

知識及び技能

目標

知識及び技能

対象や事象を捉える造形的な視点や、美術の働き、美術文化について理解するとともに、発想や構想したことを基に創造的に表すことや、美術作品などの情報を読み取ることができるようにする

内容

高次の資質・能力について、

- ①美術科の目標や本質的な意義（見方・考え方）から演繹的に導かれる側面 と、
 - ②個別の学習内容をより深く習得するために帰納的に導かれる側面
- の二面性を踏まえ、検討いただきたい

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

領域	区分	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	自分と美術（仮）	<u>造形の要素の働きや全体のイメージ、美術の働きや美術文化について実感を伴って捉えながら、材料や用具の生かし方などを身に付け、自分との関わりの視点から意図に応じて表現方法を工夫して表すことにより、創造的に表現できることを理解している</u>	【共通事項】 ・形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージなどで捉えることを理解する ・美術の働きや美術文化について理解する ・材料や用具の特性を生かし、創造的に表すなどの技能に関する事項を身に付ける ・制作の順序を考えながら見通しをもって表すなどの技能に関する事項を身に付ける
	身近な生活や社会と美術（仮）	<u>造形の要素の働きや全体のイメージ、美術の働きや美術文化について実感を伴って捉えながら、材料や用具の生かし方などを身に付け、客観的な視点から自分の意図に応じて表現方法を工夫して表すことにより、創造的に表現できることを理解している</u>	【共通事項】 ・形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージなどで捉えることを理解する ・美術の働きや美術文化について理解する ・材料や用具の特性を生かし、創造的に表すなどの技能に関する事項を身に付ける ・制作の順序を考えながら見通しをもって表すなどの技能に関する事項を身に付ける
鑑賞	自分と美術（仮）	<u>造形の要素の働きや全体のイメージ、美術の働きや美術文化について実感を伴って捉えながら、感じ取ったことや考えたことなどを基に表現された美術作品などの情報を読み取る</u> ことにより、 <u>創造的に鑑賞できることを理解している</u>	【共通事項】 ・形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージなどで捉えることを理解する ・美術の働きや美術文化について理解する ・視覚的な特徴などの情報を読み取る
	身近な生活や社会と美術（仮）	<u>造形の要素の働きや全体のイメージ、美術の働きや美術文化について実感を伴って捉えながら、目的や機能などを基に表現された美術作品などの情報を読み取る</u> ことにより、 <u>創造的に鑑賞できることを理解している</u>	【共通事項】 ・形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージなどで捉えることを理解する ・美術の働きや美術文化について理解する ・視覚的な特徴などの情報を読み取る

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

高等学校芸術科の目標見直し

現行の記載

【高等学校学習指導要領】

◎ 芸術科の目標

芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

知識及び技能

芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする

思考力、判断力、表現力等

創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする

学びに向かう力、人間性等

生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

◎ 解説の「各科目における見方・考え方」

各科目の特質に応じた物事を捉える視点や考え方のことである。具体的には、音楽における「音楽的な見方・考え方」、美術及び工芸における「造形的な見方・考え方」、書道における「書に関する見方・考え方」である

改善案（たたき台）

※今後の内容等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

◎ 目標

芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

知識及び技能 (案)

各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする

思考力、判断力、表現力等 (案)

創造的な表現の工夫について考えたり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする

学びに向かう力、人間性等 (案)

生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、芸術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

◎ 見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること

高等学校芸術科（音楽）の目標見直し

現行の記載

【高等学校学習指導要領】

◎ 芸術科音楽（Ⅰ～Ⅲ）の目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
音楽Ⅰ	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
音楽Ⅱ	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
音楽Ⅲ	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性について理解するとともに、創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫したり音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりすることができるようにする。	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、音楽文化を尊重し、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

◎ 解説の「音楽的な見方・考え方」

感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、音楽の文化的・歴史的背景などと関連付けること

改善案（たたき台）

※今後の内容等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

◎ 目標

音楽の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す			
音楽Ⅰ	知識及び技能（案）	思考力、判断力、表現力等（案）	学びに向かう力、人間性等（案）
	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かし曲や音楽を創造的に表現するために必要な技能を身に付けるようにする	自己のイメージに基づいた音楽表現について考え表現意図をもつことや、曲や演奏を解釈したり評価したりしながら音楽を味わって聴くことができるようにする	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、創造的に音楽や音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養い、豊かな情操を培う
音楽の諸活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す			
音楽Ⅱ	知識及び技能（案）	思考力、判断力、表現力等（案）	学びに向かう力、人間性等（案）
	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かし曲や音楽を創造的に表現するために必要な技能を身に付けるようにする	個性豊かな音楽表現について考え表現意図をもつことや、明確な根拠をもって曲や演奏を解釈したり評価したりしながら音楽を味わって聴くことができるようにする	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、創造的に音楽や音楽文化と関わり親しんでいくとともに、音楽によって心豊かな生活や社会を築いていく態度を養い、豊かな情操を培う
音楽の諸活動を通して、生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す			
音楽Ⅲ	知識及び技能（案）	思考力、判断力、表現力等（案）	学びに向かう力、人間性等（案）
	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽文化の多様性について理解するとともに、創意工夫や表現上の効果を生かし、曲や音楽を創造的に表現するために必要な技能を身に付けるようにする	音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かな音楽表現について考え表現意図をもつことや、曲や演奏を解釈したり評価したりしながら音楽を味わって聴くことができるようにする	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、音楽や音楽文化を尊重し、音楽によって心豊かな生活や社会を築いていく態度を養い、豊かな情操を培う

◎ 見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

高次の資質・能力の内容のイメージ（高等学校芸術科（音楽）①）

音楽（高等学校芸術科）

思考力、判断力、表現力等

教科目標（芸術科）

思考力、判断力、表現力等

創造的な表現の工夫について考えたり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする

科目目標（音楽Ⅰ）

思考力、判断力、表現力等

自己のイメージに基づいた音楽表現について考え表現意図をもつことや、曲や演奏を解釈したり評価したりしながら音楽を味わって聴くことができるようにする

内容（音楽Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

領域	区分	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	歌唱	<u>音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、個性を生かした表現に対する表現意図をもち、自分や他者にとって歌唱による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる</u>	〔共通事項〕 ・知覚したことと感受したこととの関わりについて考える ・表現意図をもつ
	器楽	<u>音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、個性を生かした表現に対する表現意図をもち、自分や他者にとって器楽による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる</u>	〔共通事項〕 ・知覚したことと感受したこととの関わりについて考える ・表現意図をもつ
	創作	<u>音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、構成を生かした統一感のある音楽をつくるための表現意図をもち、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる</u>	〔共通事項〕 ・知覚したことと感受したこととの関わりについて考える ・表現意図をもつ
鑑賞		<u>音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、音楽を解釈したり曲や演奏を評価したりしながら聴き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を見だし音楽を聴き深めることができる</u>	〔共通事項〕 ・知覚したことと感受したこととの関わりについて考える ・音楽を解釈したり評価したりしながら聴く

高次の資質・能力について、

- ①音楽科の目標や本質的な意義（見方・考え方）から演繹的に導かれる側面 と、
- ②個別の学習内容をより深く習得するために帰納的に導かれる側面の二面性を踏まえ、検討いただきたい

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

高次の資質・能力の内容のイメージ（高等学校芸術科（音楽）②）

音楽（高等学校芸術科）

知識及び技能

高次の資質・能力について、

- ①音楽科の目標や本質的な意義（見方・考え方）から演繹的に導かれる側面 と、
- ②個別の学習内容をより深く習得するために帰納的に導かれる側面の二面性を踏まえ、検討いただきたい

教科目標（芸術科）

知識及び技能

各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする

科目目標（音楽Ⅰ）

知識及び技能

曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かし曲や音楽を創造的に表現するために必要な技能を身に付けるようにする

内容（音楽Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

領域	区分	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	歌唱	曲の特徴などを個々の感じ方や考え方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、表現意図を歌唱で <u>表現</u> できることを理解している	〔共通事項〕 ・音楽を形づくっている要素と音楽に関する記号や用語について理解する ・曲想と音楽の構造との関わり、声の音色や響きと曲種に応じた発声との関わりなどについて理解する ・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能などを身に付ける
	器楽	曲の特徴などを個々の感じ方や考え方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、表現意図を器楽で <u>表現</u> できることを理解している	〔共通事項〕 ・音楽を形づくっている要素と音楽に関する記号や用語について理解する ・曲想と音楽の構造との関わり、楽器の音色や響きと奏法との関わりなどについて理解する ・曲にふさわしい楽器の奏法、身体の使い方などの技能などを身に付ける
	創作	音や音同士の関係の特徴などを個々の感じ方や考え方等に応じて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて音楽をつくり変えたり変奏や編曲をしたりすることにより、表現意図を創作で <u>表現</u> できることを理解している	〔共通事項〕 ・音楽を形づくっている要素と音楽に関する記号や用語について理解する ・音素材、音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型、構成上の特徴について理解する ・反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくる技能、変奏したり編曲したりする技能などを身に付ける
鑑賞		音楽の特徴や文化的・歴史的背景などを個々の感じ方や考え方等に基づいて実感を伴って捉えることにより、よさや美しさなどを見いだすことができることを理解している	〔共通事項〕 ・音楽を形づくっている要素と音楽に関する記号や用語について理解する ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりなどについて理解する

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

高等学校芸術科（美術）の目標見直し

現行の記載

【高等学校学習指導要領】

◎ 芸術科美術（Ⅰ～Ⅲ）の目標

美術Ⅰ	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。	
	美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
美術Ⅱ	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。	
	美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性を生かして発想し構想を練ったり、自己の価値観を働かせて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、美術文化を尊重し、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。	
美術Ⅲ	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、個性を生かして発想し構想を練ったり、自己の価値観を働かせて美術に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、美術文化を尊重し、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。	

◎ 解説の「美術的な見方・考え方」

感性や美意識、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと

改善案（たたき台）

※今後の内容等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

◎ 目標

美術Ⅰ	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す	知識及び技能（案）	思考力、判断力、表現力等（案）	学びに向かう力、人間性等（案）
	対象や事象を捉える造形的な視点や、美術の働き、美術文化について幅広く理解するとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことや、美術作品などの情報を幅広く読み取ることができるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う	
	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す	知識及び技能（案）	思考力、判断力、表現力等（案）	学びに向かう力、人間性等（案）
美術Ⅱ	対象や事象を捉える造形的な視点や、美術の働き、美術文化について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めてし、個性豊かで創造的に表すことや、美術作品などの情報を深く読み取ることができるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫などについて考え、個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めてし、個性豊かで創造的に表すことや、美術作品などの情報を深く読み取ることができるようにする	主体的・協働的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う	
	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す	知識及び技能（案）	思考力、判断力、表現力等（案）	学びに向かう力、人間性等（案）
	対象や事象を捉える造形的な視点や、美術の働き、美術文化について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を追求し、個性を生かして発想し構想を練ったり、自己の価値観を働かせて美術に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創造的な工夫などについて考え、個性を生かして発想し構想を練ったり、自己の価値観を働かせて美術に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、美術文化を尊重し、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う	

◎ 見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

高等学校芸術科（工芸）の目標見直し

現行の記載

【高等学校学習指導要領】

◎ 芸術科工芸（Ⅰ～Ⅲ）の目標

工 芸 Ⅰ	工芸の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。	
	工芸の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
工 芸 Ⅱ	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に工芸の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。	
	工芸の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な工芸や工芸の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
工 芸 Ⅲ	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を追求し、個性を生かして創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから個性を生かして発想し構想を練ったり、自己の価値観を働かせて工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に工芸の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、工芸の伝統と文化を尊重し、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。	

◎ 解説の「工芸的な見方・考え方」

感性や美意識、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと

改善案（現行ベースのたたき台）

※今後の内容等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

◎ 目標

工 芸 Ⅰ	工芸の幅広い創造活動を通して、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す	知識及び技能（案）	思考力、判断力、表現力等（案）	学びに向かう力、人間性等（案）
	対象や事象を捉える造形的な視点や、工芸の働き、工芸の伝統と文化について幅広く理解するとともに、発想や構想したことを基に創造的に表すことや、造形的な情報を幅広く読み取ることができるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う	
	工芸の創造的な諸活動を通して、美的体験を深め、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す	知識及び技能（案）	思考力、判断力、表現力等（案）	学びに向かう力、人間性等（案）
工 芸 Ⅱ	対象や事象を捉える造形的な視点や、工芸の働き、工芸の伝統と文化について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことや、美術作品などの情報を深く読み取ることができるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、思いや願いなどから個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて工芸に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に工芸の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う	
	工芸の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な工芸や工芸の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す	知識及び技能（案）	思考力、判断力、表現力等（案）	学びに向かう力、人間性等（案）
工 芸 Ⅲ	対象や事象を捉える造形的な視点や、工芸の働き、工芸の伝統と文化について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を追求し、個性を生かして発想し構想を練ったり、自己の価値観を働かせて工芸に対する見方や感じ方を精査しながら深く読み取ることができるようにする	造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創意工夫などについて考え、思いや願いなどから個性を生かして発想し構想を練ったり、自己の価値観を働かせて工芸に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に工芸の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、工芸の伝統と文化を尊重し、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う	

◎ 見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

高次の資質・能力の内容のイメージ（高等学校芸術科（美術）①）

美術（高等学校芸術科）

思考力、判断力、表現力等

教科目標（芸術科）

思考力、判断力、 表現力等

創造的な表現の工夫について考えたり、価値意識をもって芸術
のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする

科目目標（美術Ⅰ）

思考力、判断力、 表現力等

造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術作品などに対する
見方や感じ方を深めたりすることができるようにする

内容（美術Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

高次の資質・能力について、

- ①芸術科美術の目標や本質的な意義（見方・考え方）から演繹的に導かれる側面 と、
- ②個別の学習内容をより深く習得するために帰納的に導かれる側面
の二面性を踏まえ、検討いただきたい

見方・考え方

感性や想像力を働
かせ、対象や事象を、
造形的、文化的な
視点で捉え、意味や
価値をつくりだすこと

領域	区分	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	自分と美術（仮）	<u>対象や事象を自分との関わりの視点に立って深く見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生成し、創造的に発想したり構想を練ったりすることができる</u>	（絵画・彫刻、映像メディア表現） ・感じ取ったことや考えたことを基に主題を生成する ・創造的な表現の構想を練る
	社会と美術（仮）	<u>対象や事象を社会的な視点に立って深く見つめ、目的や条件などを基に主題を生成し、創造的に発想したり構想を練ったりすることができる</u>	（デザイン、映像メディア表現） ・目的や条件、機能などを考え、主題を生成する ・創造的な表現の構想を練る
鑑賞	自分と美術（仮）	<u>自分との関わりの視点に立って美術作品などを深く見つめ、造形的なよさや美しさなどを感じ取り、価値意識をもって作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考え、見方や感じ方を深めることができる</u>	（絵画・彫刻、映像メディア表現） ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情、表現の意図と創造的な表現の工夫などを考えて、見方や感じ方を深める
	社会と美術（仮）	<u>社会的な視点に立って美術作品などを深く見つめ、目的や機能などとの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、価値意識をもって作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考え、見方や感じ方を深めることができる</u>	（デザイン、映像メディア表現） ・目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情、表現の意図と創造的な工夫などを考えて、見方や感じ方を深める

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

高次の資質・能力の内容のイメージ（高等学校芸術科（美術）②）

美術（高等学校芸術科）

知識及び技能

教科目標（芸術科）

知識及び技能

各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする

科目目標（美術Ⅰ）

知識及び技能

対象や事象を捉える造形的な視点や、美術の働き、美術文化について幅広く理解するとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことや、美術作品などの情報を幅広く読み取ることができるようにする

内容（美術Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

領域	区分	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	自分と美術（仮）	造形の要素の働きや全体のイメージ、美術の働きや美術文化について実感を伴って捉えながら、自分との関わりの視点から意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を創意工夫し主題を追求して表すことにより、創造的に表現できることを理解している	〔共通事項〕 ・形や色彩、材料や光などの性質やその効果などと、全体のイメージなどで捉えることを理解する ・美術の働きや美術文化について理解する ・材料や用具、映像メディア機器等の特性を生かす ・主題を追求し創造的に表すなどの技能に関する事項を身に付ける
	社会と美術（仮）	造形の要素の働きや全体のイメージ、美術の働きや美術文化について実感を伴って捉えながら、客観的な視点から自分の意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を創意工夫し主題を追求して表すことにより、創造的に表現できることを理解している	〔共通事項〕 ・形や色彩、材料や光などの性質やその効果などと、全体のイメージなどで捉えることを理解する ・美術の働きや美術文化について理解する ・材料や用具、映像メディア機器等の特性を生かす ・目的や計画を基に創造的に表すなどの技能に関する事項を身に付ける
鑑賞	自分と美術（仮）	造形の要素の働きや全体のイメージ、美術の働きや美術文化について実感を伴って捉えながら、感じ取ったことや考えたことなどを基に表現された美術作品などの情報を幅広く読み取ることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	〔共通事項〕 ・形や色彩、材料や光などの性質やその効果などと、全体のイメージなどで捉えることを理解する ・美術の働きや美術文化について理解する ・視覚的な特徴などの情報を読み取る ・背景や文脈などを踏まえながら美術作品などの情報を読み取る
	社会と美術（仮）	造形の要素の働きや全体のイメージ、美術の働きや美術文化について実感を伴って捉えながら、目的や機能などを基に表現された美術作品などの情報を幅広く読み取ることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	〔共通事項〕 ・形や色彩、材料や光などの性質やその効果などと、全体のイメージなどで捉えることを理解する ・美術の働きや美術文化について理解する ・視覚的な特徴などの情報を読み取る ・背景などを踏まえながら美術作品などの情報を読み取る

高次の資質・能力について、

- ①芸術科美術の目標や本質的な意義（見方・考え方）から演繹的に導かれる側面 と、
- ②個別の学習内容をより深く習得するために帰納的に導かれる側面の二面性を踏まえ、検討いただきたい

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

高次の資質・能力の内容のイメージ（高等学校芸術科（工芸）①）

工芸（高等学校芸術科）

思考力、判断力、表現力等

教科目標（芸術科）

思考力、判断力、 表現力等

創造的な表現の工夫について考えたり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする

科目目標（工芸Ⅰ）

思考力、判断力、 表現力等

造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする

内容（工芸Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

高次の資質・能力について、

- ①芸術科工芸の目標や本質的な意義（見方・考え方）から演繹的に導かれる側面 と、
- ②個別の学習内容をより深く習得するために帰納的に導かれる側面の二面性を踏まえ、検討いただきたい

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

領域	区分	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	身近な生活と工芸	<u>対象や事象を身近な生活の視点に立って深く見つめ、自然や素材、自分の思いなどから心豊かに発想したり構想を練ったり</u> ことができる	（身近な生活の視点に立った発想や構想） ・自然や素材、自己の思いなどから、心豊かな発想をする ・制作の構想を練る
	社会と工芸	<u>対象や事象を社会的な視点に立って深く見つめ、使う人や生活環境などから心豊かに発想したり構想を練ったり</u> することができる	（社会的な視点に立った発想や構想） ・使う人の願いや心情、生活環境などから心豊かな発想をする ・制作の構想を練る
鑑賞	身近な生活と工芸	<u>身近な生活の視点に立って工芸作品などを深く見つめ、よさや美しさを感じ取り、価値意識をもって作者の心情や意図と制作過程における工夫などについて考え、見方や感じ方を深める</u> ことができる	（身近な生活の視点に立って考える鑑賞） ・工芸作品などのよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考えて、見方や感じ方を深める
	社会と工芸	<u>社会的な視点に立って工芸作品などを深く見つめ、よさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫などについて考え、見方や感じ方を深める</u> ことができる	（社会的な視点に立って考える鑑賞） ・工芸作品などのよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考えて、見方や感じ方を深める

高次の資質・能力の内容のイメージ（高等学校芸術科（工芸）②）

工芸（高等学校芸術科）

知識及び技能

教科目標（芸術科）

知識及び技能

各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする

科目目標（工芸Ⅰ）

知識及び技能

対象や事象を捉える造形的な視点や、工芸の働き、工芸の伝統と文化について幅広く理解するとともに、発想や構想したことを基に創造的に表すことや、造形的な情報を幅広く読み取ることができるようにする

内容（工芸Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

領域	区分	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	身近な生活と工芸	造形の要素の働きや全体のイメージ、工芸の働きや工芸の伝統と文化について実感を伴って捉えながら、身近な生活の視点に立って、意図に応じて材料や用具を生かし、手順や技法などを吟味し表すことにより、創造的に表現できることを理解している	<p>【共通事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩、素材や光などの性質やその効果などと、全体のイメージなどで捉えることを理解する ・工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解する <p>・意図に応じて材料や用具を生かす</p> <p>・手順や技法などを吟味し、創造的に表すなどの技能に関する事項を身に付ける</p>
	社会と工芸	造形の要素の働きや全体のイメージ、工芸の働きや工芸の伝統と文化について実感を伴って捉えながら、社会的な視点に立って、意図に応じて材料や用具を生かし、手順や技法などを吟味し表すことにより、創造的に表現できることを理解している	<p>【共通事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩、素材や光などの性質やその効果などと、全体のイメージなどで捉えることを理解する ・工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解する <p>・意図に応じて材料や用具を生かす</p> <p>・手順や技法などを吟味し、創造的に表すなどの技能に関する事項を身に付ける</p>
鑑賞	身近な生活と工芸	造形の要素の働きや全体のイメージ、工芸の働きや工芸の伝統と文化について実感を伴って捉えながら、身近な生活の視点に立って表現された工芸作品などの情報を幅広く読み取ることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	<p>【共通事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩、素材や光などの性質やその効果などと、全体のイメージなどで捉えることを理解する ・工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解する <p>・視覚的な特徴などの情報を読み取る</p> <p>・背景などを踏まえながら工芸作品などの情報を読み取る</p>
	社会と工芸	造形の要素の働きや全体のイメージ、工芸の働きや工芸の伝統と文化について実感を伴って捉えながら、社会的な視点に立って表現された工芸作品などの情報を幅広く読み取ることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	<p>【共通事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩、素材や光などの性質やその効果などと、全体のイメージなどで捉えることを理解する ・工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解する <p>・視覚的な特徴などの情報を読み取る</p> <p>・背景などを踏まえながら工芸作品などの情報を読み取る</p>

高次の資質・能力について、

- ①芸術科工芸の目標や本質的な意義（見方・考え方）から演繹的に導かれる側面 と、
- ②個別の学習内容をより深く習得するために帰納的に導かれる側面の二面性を踏まえ、検討いただきたい

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

高等学校芸術科（書道）の目標見直し

現行の記載

【高等学校学習指導要領】

◎ 芸術科書道（Ⅰ～Ⅲ）の目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
書道Ⅰ 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
書道Ⅱ 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
書道Ⅲ 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、創造的に表現するための技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に深く構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化を尊重し、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

◎ 解説の「書道的な見方・考え方」

感性を働かせ、書を、書を構成する要素やそれらが相互に関連する働きの視点で捉え、書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化などとの関わりから、書の表現の意味や価値を見いだすこと

改善案（たたき台）

※今後の内容等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

◎ 目標

書道の幅広い創造活動を通して、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す		
知識及び技能（案）	思考力、判断力、表現力等（案）	学びに向かう力、人間性等（案）
書道Ⅰ 書の表現の方法や形式、多様性、書の伝統と文化について幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、感興や意図を創造的に表したり、作品や書から美に関する情報を読み取ったりするための基礎的な技能を身に付けることができるようにする	作品や書の美と、その伝統と文化の意味や価値を考え、意図に基づいて創造的に構想し表現を工夫したり、価値意識をもって書のよさや美しさを味わい捉えたりすることができるようにする	主体的・協働的に書道の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
書道の創造的な諸活動を通して、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す		
知識及び技能（案）	思考力、判断力、表現力等（案）	学びに向かう力、人間性等（案）
書道Ⅱ 書の表現の方法や形式、多様性、書の伝統と文化について理解を深めるとともに、感興や意図を創造的に表したり、作品や書から美に関する情報を読み取ったりするための技能を身に付けることができるようにする	作品や書の美と、その伝統と文化の意味や価値を考え、意図に基づいて創造的、個性的に構想し表現を工夫したり、価値意識をもって書のよさや美しさを深く味わい捉えたりすることができるようにする	主体的・協働的に書道の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性をさらに高め、書の伝統と文化を尊重し、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
書道の創造的な諸活動を通して、生活や社会の中の多様な文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す		
知識及び技能（案）	思考力、判断力、表現力等（案）	学びに向かう力、人間性等（案）
書道Ⅲ 書の表現の方法や形式、多様性、書の伝統と文化について理解を深めるとともに、感興や意図を創造的に表したり、作品や書から美に関する情報を読み取ったりするための技能を身に付けることができるようにする	作品や書の美と、その伝統と文化の意味や価値を考え、意図に基づいて創造的、個性的に構想し表現を工夫したり、価値意識をもって書のよさや美しさを深く味わい捉えたりすることができるようにする	主体的・協働的に書道の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化を尊重し、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

◎ 見方・考え方

感性を働かせ、文字や書を、書の美を構成する要素とその働き、伝統と文化などの視点で捉え、意味や価値を追求すること

高次の資質・能力の内容のイメージ（高等学校芸術科（書道）①）

書道（高等学校芸術科）

思考力、判断力、表現力等

教科目標（芸術科）

思考力、判断力、表現力等

創造的な表現の工夫について考えたり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする

科目目標（書道Ⅰ）

思考力、判断力、表現力等

作品や書の美と、その伝統と文化の意味や価値を考え、意図に基づいて創造的に構想し表現を工夫したり、価値意識をもって書のよさや美しさを味わい捉えたりすることができるようにする

内容（書道Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

領域	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	自分と社会、文字や書の歴史や文化等との関わりから、作品や書の <u>美について深く考えながら、自らの意図に基づいて構想し、その実現のために表現を工夫することができる</u>	<p>＜漢字仮名交じりの書＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名筆を生かした表現や現代に生きる表現、自らの意図に基づく創造的、個性的な表現を構想し工夫する <p>＜漢字の書＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字の書の伝統と文化に基づく表現、自らの意図に基づく創造的、個性的な表現を構想し工夫する <p>＜仮名の書＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮名の書の伝統と文化に基づく表現、自らの意図に基づく創造的、個性的な表現を構想し工夫する
鑑賞	書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化等との関わりを通して、作品や書の <u>美、その伝統と文化の意味や価値について深く考え、書のよさや美しさを味わうことができる</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・作品や書の価値とその根拠、書の美の意味や価値、書の普遍的価値について考える ・生活や社会における文字や書の働きや効用、書の美の働きや効用、現代における作品や書の意味や価値について考える

高次の資質・能力について、

- ①芸術科書道の目標や本質的な意義（見方・考え方）から演繹的に導かれる側面 と、
- ②個別の学習内容をより深く習得するために帰納的に導かれる側面の二面性を踏まえ、検討いただきたい

見方・考え方

感性を働かせ、文字や書を、書の美を構成する要素とその働き、伝統と文化などの視点で捉え、意味や価値を追求すること

高次の資質・能力の内容のイメージ（高等学校芸術科（書道）②）

書道（高等学校芸術科）

知識及び技能

教科目標（芸術科）

知識及び技能

各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする

科目目標（書道Ⅰ）

知識及び技能

書の表現の方法や形式、多様性、書の伝統と文化について幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、感興や意図を創造的に表したり、作品や書から美に関する情報を読み取ったりするための基礎的な技能を身に付けることができるようにする

内容（書道Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

高次の資質・能力について、

- ①芸術科書道の目標や本質的な意義（見方・考え方）から演繹的に導かれる側面 と、
 - ②個別の学習内容をより深く習得するために帰納的に導かれる側面
- の二面性を踏まえ、検討いただきたい

見方・考え方

感性を働かせ、文字や書を、書の美を構成する要素とその働き、伝統と文化などの視点で捉え、意味や価値を追求すること

領域	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	作品や書の表現や書風における美の構造やその働き、書文化について <u>実感を伴って捉えながら、意図に基づいて書の表現性、表現効果と関わる用筆・運筆などの要素を働かせて表すことにより、創造的、個性的に表現できることを理解している</u>	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書の表現性とその表現効果との関わりについて理解する ・書を構成する要素について、相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解する <p>＜漢字仮名交じりの書＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字仮名交じりの書及びその美を構成する要素の働き、多様な表現について理解する ・意図に基づいて漢字仮名交じりの書を表す技能を身に付ける <p>＜漢字の書＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字の書及びその美を構成する要素の働き、漢字の書の多様な書風について理解する ・意図に基づいて漢字の書を表す技能を身に付ける <p>＜仮名の書＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮名の書及びその美を構成する要素の働き、仮名の書の多様な書風について理解する ・意図に基づいて仮名の書を表す技能を身に付ける
鑑賞	書の伝統と文化、書の美の多様性と関わらせて、書の美を捉える視点や方法について <u>実感を伴って捉えながら、作品や書から情報を読み取る</u> ことにより、 <u>作品や書のよさや美しさを豊かに味わうことができることを理解している</u>	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書の表現性とその表現効果との関わりについて理解する ・書を構成する要素について、相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解する <ul style="list-style-type: none"> ・書を鑑賞するための方法や多様な背景との関わりについて理解する ・作品や書から美に関する情報を読み取る技能を身に付ける

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

各学校段階における目標の検討素案一覧（音楽）

目標

柱書

小学校

表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

中学校

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

高等学校

音楽の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す【音楽Ⅰ】

知識及び技能

小学校

曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、曲や音楽を創造的に表現するために必要な技能を身に付けるようにする

中学校

曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、曲や音楽を創造的に表現するために必要な技能を身に付けるようにする

高等学校

曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かし曲や音楽を創造的に表現するために必要な技能を身に付けるようにする【音楽Ⅰ】

思考力、判断力、表現力等

小学校

音楽表現について考え思いや意図をもったり、曲や演奏のよさや楽しさなどを見いだしながら味わって聴いたりすることができるようにする

中学校

表したい音楽表現について考え思いや意図をもったり、曲や演奏の価値などを考えながら音楽を味わって聴いたりすることができるようにする

高等学校

自己のイメージに基づいた音楽表現について考え表現意図をもつことや、曲や演奏を解釈したり評価したりしながら音楽を味わって聴くことができるようにする【音楽Ⅰ】

学びに向かう力、人間性等

小学校

楽しさを味わいながら主体的・協働的に音楽活動に取り組み、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、創造的に音楽に関わり親しむ態度を養い、豊かな情操を培う

中学校

楽しさを味わいながら主体的・協働的に音楽活動に取り組み、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、創造的に音楽や音楽文化に関わり親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う

高等学校

主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、創造的に音楽や音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養い、豊かな情操を培う【音楽Ⅰ】

各学校段階における目標の検討素案一覧（図画工作、美術、工芸）

目標

柱書	小学校	表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
	中学校	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
	高等学校	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す【美術Ⅰ】
		工芸の幅広い創造活動を通して、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す【工芸Ⅰ】
	小学校	対象や事象を捉える造形的な視点や造形の働きについて理解するとともに、創造的につくったり見たりすることができるようにする
	中学校	対象や事象を捉える造形的な視点や、美術の働き、美術文化について理解するとともに、発想や構想したことを基に創造的に表すことや、 <u>美術作品などの情報を読み取る</u> ことができるようにする
	高等学校	対象や事象を捉える造形的な視点や、美術の働き、美術文化について幅広く理解するとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことや、 <u>美術作品などの情報を幅広く読み取る</u> ことができるようにする【美術Ⅰ】
		対象や事象を捉える造形的な視点や、工芸の働き、工芸の伝統と文化について幅広く理解するとともに、 <u>発想や構想したことを基に創造的に表す</u> ことや、造形的な情報を幅広く読み取ることができるようにする【工芸Ⅰ】
	小学校	造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする
	中学校	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、 <u>創造的に発想し構想を練ったり、美術作品などに対する見方や感じ方を</u> 深めたりすることができるようにする
	高等学校	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする【美術Ⅰ】
		造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって <u>工芸作品などに対する見方や感じ方を</u> 深めたりすることができるようにする【工芸Ⅰ】
思考力、判断力、表現力等	小学校	つくりだす喜びを味わいながら主体的・協働的に活動に取り組むとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う
	中学校	創造活動の喜びを味わいながら、主体的・協働的に美術の活動に取り組むとともに、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
	高等学校	主体的・協働的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う【美術Ⅰ】 主体的・協働的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う【工芸Ⅰ】
学びに向かう力、人間性等	小学校	
	中学校	
	高等学校	

高等学校芸術科各科目における目標の検討素案一覧

目標

柱書

芸術科

芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

音楽Ⅰ

音楽の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

美術Ⅰ

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

工芸Ⅰ

工芸の幅広い創造活動を通して、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

書道Ⅰ

書道の幅広い創造活動を通して、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

知識及び技能

芸術科

各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする

音楽Ⅰ

曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かし曲や音楽を創造的に表現するために必要な技能を身に付けるようにする

美術Ⅰ

対象や事象を捉える造形的な視点や、美術の働き、美術文化について幅広く理解するとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことや、美術作品などの情報を幅広く読み取ることができるようにする

工芸Ⅰ

対象や事象を捉える造形的な視点や、工芸の働き、工芸の伝統と文化について幅広く理解するとともに、発想や構想したことを基に創造的に表すことや、造形的な情報を幅広く読み取ることができるようにする

書道Ⅰ

書の表現の方法や形式、多様性、書の伝統と文化について幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、感興や意図を創造的に表したり、作品や書から美に関する情報を読み取ったりするための基礎的な技能を身に付けることができるようにする

思考力、判断力、表現力等

芸術科

創造的な表現の工夫について考えたり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする

音楽Ⅰ

自己のイメージに基づいた音楽表現について考え表現意図をもつことや、曲や演奏を解釈したり評価したりしながら音楽を味わって聴くことができるようにする

美術Ⅰ

造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする

工芸Ⅰ

造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする

書道Ⅰ

作品や書の美と、その伝統と文化の意味や価値を考え、意図に基づいて創造的に構想し表現を工夫したり、価値意識をもって書のよさや美しさを味わい捉えたりすることができるようにする

学びに向かう力、人間性等

芸術科

生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、芸術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

音楽Ⅰ

主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、創造的に音楽や音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養い、豊かな情操を培う

美術Ⅰ

主体的・協働的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

工芸Ⅰ

主体的・協働的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

書道Ⅰ

主体的・協働的に書道の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

第1～4回芸術WGにおける主な意見①

【創造性】

- 芸術系教科の特徴として創造性がある。自分にとってどんな価値があるかを考えることにより、世の中の様々なことが自分にとって意味のあることになる。それが芸術系教科を学ぶ意義ではないか
- 美術教育における創造性について、意味や価値をつくりだすことは、見方・考え方に位置付けられているが、現実に対する意味、そして、まだ見ぬ未来に向けた意味、つまり、子供による問題提起が重要
- 創造することの喜びを味わい、自ら考え、自らものをつくっていくという創造する能力は変化の激しい社会において重要な資質・能力であり、芸術系教科の根本となる。
- 児童生徒が主体的に自分の感性で作品をつくる際の前提としてコンセプトワーク（企画・構合力）を大事にしたい。論理的思考、創造的思考、批評的思考などが複雑に入り込んでいる。イノベーションが求められる現代社会においてこれら三つの思考は重要。
- 芸術教育は鑑賞者だけではなく表現者を育てるということを考えたときに、創造性と結びつく。子供たちの創造性を育むために、教師がどのように創造性を意識した授業デザインができるかを考えることが重要。
- 芸術系教科において創造性を育むためには、知性と感性をどのように関連付けて新たな価値を生み出すか、または自分で価値を見出すか、という学習が重要。
- 中核的概念等の示し方に関しては、現行の学習指導要領を発展し、創造性や感性といった要素でまとめるべき
- 創造性は高次の資質・能力であり、創造性を支える基盤的能力を柱の中に位置付けることにより指導の具体性が実現される。
- 【音楽】音楽は再現芸術が中心であり、既存の曲から作曲者の意図を探りながら演奏していくという特徴がある。授業でみんなで演奏する活動で、作曲者の考えや音楽構造を読み込んでいく中で、いかに自分のオリジナリティのある表現を見いだしていくか、それをみんなで表現し創意工夫を位置付けていくのが大事。
- 【図画工作】図画工作・美術科の現行の見方・考え方の文末は「意味や価値をつくりだすこと」であり、教科の本質的意義である創造の重要な部分である。「つくる」ではなく「つくり、そしてだす」という中に、これまでになかった意味や価値を創出する意味がある。創造は現状の問題解決のために発揮されるだけでなく、未来に向けた問題提起としても発揮される。
- 感性や創造性が大切であり、感性はよさや美しさについて心が動く、この点を育てることが重要。創造性では、身体も使いながら自分自身にとっての意味や価値をつくりだすことが重要。それは、自分自身をもつくりだすことである。
- 【音楽】創造は大事なことだが、言葉自体が様々な意味を持ち、文脈によって意味が変わるので慎重にならないといけない。
- 【音楽】創造性は音楽の理解や技能、習得だけでなく、自らが音を生み出して新しい表現を構築する力。創造性という資質・能力に主軸を置いて考えることも必要であり、どのような資質・能力と関連するものであるかをぶれないように考えていく必要がある。

第1～4回芸術WGにおける主な意見②

【創造性】（つづき）

- 【音楽】「創造的」が入ることで芸術系教科の意味や意義が明確になった。ただし、小学校では少し難しい可能性がある。
- 【美術】目標のレベルが造形的な使われ方に限定されている印象。造形的な観点にとらわれすぎると、創造の土壌を耕す教育に繋がるかどうか疑問。
- 【美術】「感性や想像力を働かせ」の「想像力」を「創造力」にしてはどうか。考え方が限定的なものから、のびのびとイメージを広げるというものにするという考え方で、クリエイティビティの創造が適しているのではないか。
- 【美術】学びに向かう力、人間性等については概ね同意だが、「美術の創造活動に取り組み」については柱書に持って行く形に戻してもよいのではないか。
- 【美術】美術教育の目標は、創造的な取組を通じて、主体的に世界を経験し探究することがベース。美術そのものが目標ではなく、創造的な取組が世界を経験するための手段。
- 見方・考え方の文末が「意味や価値をつくりだす」となっており、前段は様々だが、意味や価値を見いだす・つくりだすという事が、芸術系科目を通底した部分になるのであれば、創造性の意味や価値を教育の中の重要な思考の一つとして位置づけるべき。
- 各学校段階の目標について、小学校では「創造的につくったり見たりする技能」が新たに入っているが、創造の過程を考慮すると「創造的につくったり創造的な視点をもって見る」などしたほうが、教員が評価しやすいのではないか。

【想像力】

- 想像力は図画工作・美術の現行の見方・考え方に含まれるキーワードであるが、芸術系教科・科目全体で育成すべき資質・能力としていくことが重要。想像力を生かし、授業で学んだことと社会や生活の中での芸術に共通項を見いだすことが芸術を学ぶ意義の認識に繋がる。
- 【図画工作】図画工作では児童が自分のイメージをもちながら主体的に発想や構想をすることが重要であり、発想や構想をする時間を確保することやICT端末を活用することも考えられる。
- 【音楽】現行学習指導要領では「自己のイメージや感情」が入っているが、たたき台では削除されている。現場の子供たちの様子を踏まえると、削除してもよいかどうかは検討が必要ではないか。
- 思考力、判断力、表現力等について、言葉で考えず、頭の中で想像することが点と思うので、イメージ力は強調してもよいのではないか。

第1～4回芸術WGにおける主な意見③

【感性】

- 子供にとっての芸術系教科を学ぶ意義に関し、子供の中心には感動（心が動かされる経験）がある。調査結果からもその必要性は感じているが、音楽の学習が役に立つということを感じていない子供が多いことから、音楽を学ぶ意義を子供たちが捉えられるようにしていくことが大事
- 芸術系教科は人間の感情に直接的に影響を与えることができる。感性と知性の両輪を働かせることが重要。特に感性に重きを置くモデルや知性に重きを置くモデルがあってもよい
- スマホなどで考える間もなく情報が入ってくる中であって、芸術系教科を通して自分とは何か、美しいと感じた理由は何かを思考することで、新たな価値をつくりだすということが重要。正解を求めるのではなく、身体と心を使い、感覚的に捉えることと論理的に思考することを繰り返すことによって、実感的な理解をすることに意味がある。
- 芸術系教科を学ぶこと自体が感性を育む上で重要であり、つくりだす喜びそれ自体の大切さも忘れてはならない
- 芸術系教科を学ぶ意義を明確化することは教師にとっても子供にとっても重要で、「感性」は一つのキーワードになる
- 芸術系教科は感覚的に捉えることが感性の育成にも繋がるという特性がある。また人間の感情の変化に影響を与えたり、人間として芸術活動をする上での喜びを体験することが精神浄化につながっていく。
- 【書道】書道の制作過程は一回性であり、筆記具とその対象となる紙が触れ合う触覚、研ぎ澄ます視点が重要となる。
- 【音楽】見方・考え方について、もう少しすっきりさせるために、「音や音楽を芸術的な感性及び知性を働かせて捉え」、としてはどうか。これからのA Iの時代や、将来の仕事の展開を考える時に、芸術的な感性及び知性は大事な視点。
- 【音楽】「豊かな情操を培う」ことが科目目標に明記されるのは重要。
- 【音楽】自己のイメージや感情のように直感的に想起されるものについて、自分にとっての意味や価値を見いだすために必要。楽しさや美しさを意識するためには感情面との結びつきが大事。内容を含めどこかに記載が必要なのは。
- 「感性を働かせ」を文頭（見方・考え方）に置くのなら、冒頭の言葉が後段にもかかってくるので「感性や想像力」の方が適切。
- 「感性を働かせ」が文頭（見方・考え方）にきているのは重要。感性や想像力が、造形的な視点でとらえる際や、意味や価値をつくりだす際のいずれにも働かせていることがこれまでの学習指導要領にも位置付けられている。

第1～4回芸術WGにおける主な意見④

【感性】（つづき）

- 【書道】「書之美を感じ取り」となっているが、高等学校では、美ということについて考えることが重要。今後の検討の中で、芸術教科全体の目標や見方・考え方、共通の学びとして美を位置づけられないか。
- 「豊かな情操を培う」をすべての教科・科目の目標に入れたのは良いこと。情操とは、心が動いても元に戻る、復元して安定して、その人自身の機能をフルで活用させられる能力だと考えている。説明においても、そうした気持ちを安定させることも含むよう整理できるとよい。
- 「感性を働かせ」（見方・考え方）に関して、芸術教科の領域を代表する文言の一つであり、可能な限り共通した書きぶり・表現・言葉遣いがふさわしい。すべてに関わる土台という意味で、文頭に感性がくるのはありうるのではないか。
- 目標からみたときの高次の資質・能力を考える必要もある。初めて教員が「高次の資質・能力」を見たときに、「高次の」が論理的なイメージになってしまうのではないか。芸術の基本である「直感」「感性」「創造」などのキーワードを入れるのがふさわしいのではないか。

【充実感、達成感】

- 楽譜を読める技能など、粘り強く学習しなければ身に付かない身体的な技能を習得する過程で達成感などを感じることができ、これが学びに向かう力・人間性等にも関わってくるのではないか
- 表現や鑑賞の前提として、子供の感覚や情意、感性が位置付いていることが必要。子供が教師に伝える「できたよ」には3つの意味があり、①作品・発表ができたという意味、②イメージできたという意味、③私ができた、という意味がある。「私ができた」に対して、活動において子供の感覚や情意、感性が働いた表現や鑑賞として捉えることが教師には必要である。
- 【図画工作】学びに向かう力・人間性等に「楽しく」が位置付いた点は理解できるが、学習に対する子供の情意的な心づもりが必要であり、「楽しい」や「楽しく」が表面的な感情ではなく、その意図が通じるように表していくことが必要。
- 「楽しさを味わう」や「喜びを味わう」などの使い方が各教科微妙に異なり、教科の特性から考え直す必要があるのではないか。芸術系教科では特に大事な部分であり、学校において目指すべき、学びに向かう力、人間性等としてどういう表現が良いか精査する必要がある。「達成感を味わう」のように内発的な動機付けが高まることに関連する文言を含め、改めて検討していくことも必要。

第1～4回芸術WGにおける主な意見⑤

【身体性】

- 身体性を音楽学習のみならず、教科横断等の枠組みに位置付けることで、我が事としての学習が実現し、ひいては全ての教科等に開かれた感性や知性、創造性の土壌となり得ると考えている
- 芸術系教科では、実際に本物に触れる教科特性があるので、身体性が重要。思考・判断・表現の技能に偏った授業も見られる中で、聴いたり、目で見たり、感じたりしたことを学びとして表現したり、言葉で表していくことも大事
- デジタル機器の活用も大切であるが、実際の対象物を諸感覚で感じるフィジカル要素も重要
- 体験活動や諸感覚を働かせて学ぶフィジカルに関するものが教科理解の上で重要。幸福な人生の実現のためには、トップダウン型の学習だけではなく、美術教育に多く含まれ、学習者本人のありようを尊重した学びであるとともに、幼児期から繋がる諸感覚を駆使した身体性の学びであるボトムアップ型の学習が必要である。
- 芸術系教科の意義、強みは、個人の身体的体験により感情や感覚を巻き込んだ学びができること。個人の感覚・感情と結びついた学びにより身に付いた知識は、他の学習でも生き、ちょっとした違和感に気付く能力のように社会の様々な職業でも生きる。
- 体験が大事であることは言葉で伝えるのではなく、実際の音楽体験や造形体験に基づいて子供たちが実感するものでなければならない。美しいものをつくらなければならないという結果を重視する価値観が子供たちの中にあり、それを払拭していくことが重要。
- 【美術】身体の諸感覚を働かせることは重要であり、芸術系教科の役割。検索すればすぐに答えにたどり着ける環境も大事かもしれないが、逆に想像すること、新しいものをつくりだすこと、問いを立てることの妨げになり得る。タブレット端末は答えを見つけるのではなく、問いを生み出すことに用いられることが重要

第1～4回芸術WGにおける主な意見⑥

【多様性理解】

- 「**多様性の包摂**」はこれからの時代において重要。特に芸術系教科ならではの様々な学びにつながる
- **多様性を個人や社会の力に変えていく**という点が芸術系教科の強みであり、これを基本的な考え方として、芸術系教科を学ぶ意義を考えていきたい
- 芸術系教科は絶対的な正解がない学びであるので、**多様性（寛容性）の概念**も入り得るのではないか
- 芸術系教科では、一人一人の特性を生かした学びが可能となる。特別支援教育の学びは芸術系教科との親和性が高く、例えば合唱では声が高い人、低い人で別れて歌うが、これはインクルーシブな場であり、**多様性の包摂にもつながっていく**
- コマ撮りアニメやプロジェクションマッピングといった様々なデジタルを活用した題材が行われているが、小学校のクラスに学習面や行動面で著しい困難を示す児童がいる現状で、デジタル学習基盤は**多様性を包摂**するために使うことも考えられる
- 芸術系教科は分からないことや理解できないことに面白さを感じることがスタートであり、理解することがゴールではないところに特色がある。探究を通して、自分や他者、世界や社会におけるウェルビーイングを理解していく楽しさが、**多様性につながる**と考えている。
- 表現や鑑賞における対話において、自分の考えや意見をもつことに加えて、他者を受け入れる学習が学校教育の学びとして重要。将来社会で他者と協働しながら生きていくことに有効であるとともに、互いに尊重する態度を育することにより**多様性の包摂**の視点からも重要となる。
- 【書道】教師の提示する文字や作品にいかに近付けるかといった再現性を求めるだけの授業からいかに脱却できるか。ICTを活用して生徒の学習履歴を保存することで、生徒一人一人が感じたり考えたりしていることが異なったり、単元が進む中で、自己や他者の考え方や感じ方が変容していくことを自分として確認することもできる。そうした活動の中で、自己の考えをどのように形成していくか、という視点が、**多様性の包摂**につながり、芸術科の強みである。
- **学びに困難を抱える子供たちにとって芸術系教科の学びは重要**。論点整理に示されている「「好き」を育み、「得意」を伸ばす」が、各教科の特性を考えた時に学びに向かう力・人間性等に限られず深い学びの実装にも関わるという視点からの検討が必要。

第1～4回芸術WGにおける主な意見⑦

【主体性】

- 子供自身が考えることができる指導が重要。指導過多でも放任でもなく、教師が指導することと子供が考えることとのバランスを考えることや、学習の過程を重視した指導が求められる
- 表現と鑑賞の関連について、例えば、国際バカロレアの中等課程では、調査研究を行い、深く文脈に沿って美術を捉え、アイデアを探究し、創作し、振り返りをする。作品だけで評価するのではなく、過程を大切にすることにつながる
- 子供自らが問いを立てて課題を解決できるような授業を考えることが大切。また、教師自身が授業を通して、どんな子供を育てるのかを考え、子供の姿からその資質・能力を発揮できているか捉えて、価値付けていくべき
- 子供の表現に関わる大人や周囲の環境について、教師や子供と関わる大人等の学習観や子供観もアップデートさせることが重要。子供が自律的に学習することがどういうことなのかについて共通理解を得るべき
- 【音楽】思考・判断・表現と表現の技能をつなぐ資質・能力として、試行錯誤する力が重要。試行錯誤して答えを見つけ出すことは問題解決の能力として重要である一方で、試行錯誤する場面が少なくなっている。量的な時間としてではなく身体により体験される質的な時間として試行錯誤の重要性を考えていく必要がある。
- 【美術】美しいと感じると同時に、なぜ美しいと感じたかを考えたり話し合ったり説明したりする力がますます重要。教師が視点を示すことは、発達段階に応じて必要だが、知識を一方的に教えるのではなく比較したり語り合ったりして自ら獲得していくことが重要。また、教師が子供の多様な視点や考え方を見付けたり価値付けたりして、子供が気付いていないところも教師が拾い出して整理する力が求められる。
- 【図画工作】学びに向かう力・人間性等の「主体的、協働的に、楽しく創造活動に取り組み」の部分は、現行学習指導要領の学年目標にも記載があり、楽しさを感じながら創造活動に取り組むことの大切さを改めて打ち出しており重要な視点。
- 【図画工作】「主体的・協働的」は、教師が指導することと子供が考えることのバランスを考え、子供たち自身が考えることが出来るようにするという事に繋がるものであり重要。

第1～4回芸術WGにおける主な意見⑧

【協働性】

- 子供たちが芸術系教科の意義を感じながら学ぶことが重要。学校という集団の中で芸術を学ぶ意義とは、他者と自分との関係性の中で学校が相互承認の場であり、自己肯定感や自己有用感が育まれていく
- 端末を活用しながらも、個人的な作業ではなく、ともに学び他者と一緒につくりだす喜びや自分が刺激を受ける喜びが必要であり、学校で芸術を学ぶ意義はここにある。
- 【音楽】聴覚だけではなく、視覚や雰囲気など諸感覚を働かせた学びが重要。音楽は時間の流れとともに消えゆく芸術であり、一回のみの時間を楽しむことに音楽のすばらしさを感じられる体験が大切。仲間と一緒につくり上げることの喜びが特徴であり、少人数での可能性や自分で選んだ仲間とともにつくりあげる、多様性を意識することも重要。
- 【音楽】音楽は諸感覚を使う科目であり、仲間とつくり上げながらも自分がどう生かされているか、どんな役割を果たしているかを捉えることが必要。伝統文化を題材にするときには自分自身が文化の継承者であることなどを自覚できるようにすることが必要。
- 【メディア】創造的なプロジェクトを協働して実行する力を育むことが重要。作品を構想して発表するまでの間に多くの対話があり、自身の考えを表明するとともに他者の多様な考え方を受け入れ問題解決の糸口を探る。よりよい社会の形成や民主主義社会の基盤を支えることにもつながっていく。

【文化の理解】

- 文化への理解は重要であり、我が国の文化とはどういうものなのか、どういう文脈でその文化があるのかといった、広い視野でとらえることが大切
- 芸術が生まれてくる背景や歴史の基となる文化や社会があることを理解することが重要。グローバルな視野の下に自己を見つめ、多様な文化理解に伴って再度自己理解へつなげていくことも必要。
- 芸術系教科の特質は、文化芸術の継承と発展を担うもの。
- 伝統文化の学習は重要。日本人としての見方あるいは考え方、ひいては日本人とは何かを考えることが重要
- 伝統文化の学びについて、外国の文化を知ると自国の文化のよさも学べる。地域素材や我が国の伝統音楽に関する教材を用いるなど、学校で伝統的な音楽や文化をしっかりと学べるようにしていくことは重要
- 発達の段階を踏まえつつ、鑑賞だけではなく、表現においても文化の理解について学び、芸術系教科全体を通して学習することが大事。

第1～4回芸術WGにおける主な意見⑨

【文化の理解】（つづき）

- 【音楽】グローバル化する社会で生きていくために異文化理解が重要であり、我が国の郷土や伝統音楽に対する理解はもちろんのこと、世界の諸民族の音楽に対する理解について学ぶ意義を示すことは大切。
- 【美術】子供たちが身近な生活の中に根付いている美しい文化を見付けだすという活動を通して、自国だけでなく他国も含めた文化の理解に繋がっていくことが重要。
- 【書道】伝統文化の視点として、自国の文化の理解は他国の文化の理解につながりその逆もしかり。グローバルな視点、多様性の包摂に繋がっていく。日本特有の視点がこれからの社会で日本独自の新たな価値を生みだす根底になる。
- 【音楽】見方・考え方の教科固有の考え方や判断の仕方に、小学校にも「伝統に関わらせる」ことを含めていることは重要。
- 【図画工作、美術】「文化」が各学校段階に位置付けられている（見方・考え方）が、子供たちには継承と創造の二つの意味をもつ。文化がもつ意味をふまえ、発達の段階に応じた文化の位置付けを整理していくことが重要。
- 【美術】美術文化と豊かにかかわる資質・能力の育成について、教師がその価値を一方向的に教えるのではなく、子供たちが作品と出会い、自分自身の目で見えることを出発点にして、美術の働きや美術文化のよさを楽しみ、味わうことが重要。
- 【美術】美術文化の理解というと、鑑賞をイメージする教員が多いかもしれないが、全国における実践には表現の授業も数多くみられる。見ることとつくることの両方を通して、文化が身近な生活にあり、歴史の中で受け継がれてきたという実感的な理解に繋がっていくことが大事。
- 【書道】伝統や文化について、伝統文化の目標に係る文言には賛同するが、見方・考え方に含めなくてよいのかどうか検討が必要。
- 【美術】「美術や美術文化と豊かに関わる」（目標の柱書）について、「美術や文化と豊かにかかわる」としてもよいのではないか。芸術系教科は文化を根底から広く捉えられる教科であり、芸術が相互に関連していると考える。
- 子供たちが向かうべきは文化を継承し発展することであり、発展させるという思考を育むために、創造力、意味や価値を見いだすという風に働かせるべき。

第1～4回芸術WGにおける主な意見⑩

【知識・技能】

- 芸術教育そのものである**知識・技能の学びを大切にすることが芸術教育の本質**である。
- 【音楽】音楽をイメージや感覚で捉えるだけでなく、**用語や記号を正しく理解することで他者との共有や共感が可能となる**。知識を積み上げていくことで、生活体験と関わらせながら音楽の**理解がより深まる**ことに繋がる。
- 【図画工作】児童が自分の表したいことに合わせて表現方法を選んだり組み合わせたり新しい表現方法をつくりだしたりする、**自分なりの表し方を工夫することが技能として重要**であり、深い学びや**創造性**につながる。
- 【美術】形や色彩、材料、光などの造形的な特徴などを基に全体のイメージや作風で捉えるといった**知識を今後も明確に示していく必要**があり、言葉を使って考えたり、話し合ったりする学習の充実に繋げていく必要がある。このような知識を得ることがものの考え方や捉え方の豊かさになり、**学びの深まりが生まれる**。
- 【音楽】音楽の**技能**は学校を離れたときに、自分一人では身に付けることが難しい性質があるからこそ学校でどのような資質・能力を身に付けていくのかを考えていく必要がある。**音楽に出会ったときに理解できないことが拒否につながるのではなく、学びや豊かな人生のスタートになるためにどう考えるか、どのような知識が必要なのか、自分たちで探究していく力が大事**。
- 【音楽】「②表現したいことをどのように形にできるか」について、技能は含まれるのかどうか。表現したいことをどのように形にできるかに関して技能は関わってくるものであり、**思いや意図をもつことは当然だが、それをどのように形にできるかは技能が必要**となる。
- 【図画工作】**知識と技能の両面に関連させた議論が重要**になってくるのではないか。
- 【図画工作】知識及び技能の「造形の働き」の部分について、**自分や友達作品、生活の中の造形的作用や役割を理解することは図画工作科を学ぶ意義に繋がる**。
- 【美術】知識及び技能の「みることができる」が「創造的」にかかっているのは疑問。鑑賞は創造的に観ることより根拠をもって類推していくことが主である。**知識及び技能の対象を表現・鑑賞に留め、取り組み方、目標達成のレベルのように段階的に記載するのがよいのではないか**。
- 【美術】**美術の働きや美術文化**を知識として記すことは概ね賛成。鑑賞のみならず、表現活動でも行う事で、美術文化を実感としてとらえることができる。注意すべきは、実感を伴いながら理解を深められるため、**表面的な学習にならないように学校現場に説明していく必要がある**。
- 【映像】届けるもの（メディア）があって初めて人々の目に触れる。**メディアの特性やどのようにそれが届けられているかという点に関する知識も必要**だが、あまり強調されていないのではないか。
- **芸術系教科・科目において知識及び技能が何であるかということは問い直す必要がある**。鑑賞における技能が成立するのかどうかを含めて改めて考えていくべき。
- 【図画工作】目標の後半に「創造的につくったり」とあるが、高次の資質・能力では「実感を伴って理解している」となっており、**目標と高次の資質・能力が演繹的に対応していると言えない**。

第1～4回芸術WGにおける主な意見⑪

【知識・技能】（つづき）

- 高次の資質・能力に「～実感を伴って理解している」とあるが、音楽の学習において「わかること」、「できること」といった基本的なことから考えていかなければならない。獲得すべき知識及び技能は、手続き的なものを含んでいる。今の書きぶりだと、実際に「できる」ことよりも、それを言語化できることに重きを置くように見える。学習評価を考えると、「理解している」という文末の表現は課題が残ると考える。
- 「～実感を伴って理解している」の表現では、これまでの知識及び技能の捉え方と変わってくるので現場で混乱する恐れ。「統合的な理解」については再考が必要と考える。解説などで十分な説明が必要になる。
- 高次の資質・能力の文末が「実感を伴って理解している」となっているのは、一見整理されたように見えるが、音楽科において「理解」という言葉は知識のみで使われており、技能では使われてこなかったので誤解が生じる可能性がある。身体で出来るようになることが軽んじられているように見える。技能習得の時間が削られることの無いように再度検討いただきたい。
- 「実感を伴って理解している」について。これまでと異なる解釈になるので現場で誤解されないかと危惧。中高の教師は専科なのでまだ理解できるかもしれないが、小学校では学級担任が受け持つので特に心配。教員以外も広く学習指導要領を読むことを踏まえると、文章表現をそろえることが本質的なのかは疑問。内容は問題ないが、表現ぶりは検討が必要。
- 「実感を伴って理解している」について、解説が欠かせない。「高次の資質・能力」と「個別の知識及び技能」・「個別の思考力、判断力、表現力等」に順序性があるように感じてしまう。
- 「実感を伴って理解」とあるが、技能を理解すればいい（実際にできなくてもいい）という誤解を招きかねない。知識及び技能は往還関係にあると思うが、順序があるように解釈されないか。
- 「高次の資質・能力」の「捉える」と、資質・能力（概略）の「理解する」の違いは何か。誤解を生むことがない文言にしていかなければいけない。
- 知識及び技能の「実感を伴って理解」は、美術科は他教科の技能とはとらえ方がずれる面もあると考えられるので慎重に考える必要がある。
- 【書道】知識及び技能の「実感を伴って理解」について。メタ認知するという意味で一定程度理解はできるが、技能は体で覚える側面もあることから「理解する」ということには慎重に検討してはどうか。
- 知識及び技能の高次の資質・能力の「理解する」は何を指すのか。言語化することよりも「創造的に表現できる」ことが一番重要であることが学校現場に伝わるようにすべき。高次の資質・能力は子供が最終的に到達できる姿をプレビューしたものと理解。
- 高次の資質・能力について。個々の知識や技能が並列な絵が示されているが、ある知識と知識が統合して新たな知識を獲得するなど、階層がある。「個別の知識」というひとまとめにするのは適当ではないのではないか。

第1～4回芸術WGにおける主な意見⑫

【思考力、判断力、表現力等】

- 【音楽】「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」の「よりどころにして考え」はよいと思う。
- 【音楽】表現領域で、「表現」という単語が何度か出てくる。それぞれで文脈によって意味が若干変わっていることが伝わるか疑問。特に最後の「表現を深める」は技能面を含んだように解釈できるので、「できないといけないのか」と思われかねない。
- 【音楽】「表現」という言葉が出てくるが、音楽の知識及び技能では「音楽表現」という使い方をして、思考力、判断力、表現力等の「表現」と区別していた。技能においては「音楽表現」という表し方にできないか。
- 【音楽】「思いや意図を歌唱や器楽で表す」とあるが、「思いや意図にふさわしい表現」「思いや意図に合う表現」のほうが適切ではないか。
- 【図画工作】思考力、判断力、表現力等の文末が「楽しく豊かに」となっている。楽しくは重要なので必要だが、高次の資質・能力では「楽しく」を越えてくる状況が考えられるため、ここに入ると違和感があるのではないか。
- 【美術・工芸】高校の美術、工芸の「思考力、判断力、表現力等」はSTEAMなども考えると「社会的な視点に立って」だけでは足りないのでは。科学的、産業的、美的などの視点も増やしていくべきではないか。
- 【美術】高校美術の「思考力、判断力、表現力等」を見る限り、各区分であまり違いが見えない。ほぼ同じような内容を繰り返すことにならないか。これなら区分に分けないほうがよいのでは。
- 【美術】「高次の資質・能力」の思考力、判断力、表現力等の「表現を身近な生活や社会との関わりから捉える」の文言は重要なキーワードなので、冒頭に「生活や社会」に対応する「対象や事象をもとに」という文言を入れてはどうか。
- 【音楽】音楽の思考力、判断力、表現力等の目標について、鑑賞の「聴き深める」には「味わう」をいれられないか。

第1～4回芸術WGにおける主な意見⑬

【鑑賞】

- 鑑賞は子供にとって大切な学びである。形や色などを根拠に鑑賞することはできている一方で、その先の文化についても出会えるようにしていくなど、鑑賞を深めていくことが大切
- 実体験を重ねていくことが物事を見る精度を高めていく。自分の感覚を十分に実感した上で鑑賞することにより、見えているものの向こう側にある作家の息遣いや緊張感、深みなどが感じ取れ、深い学びにつながる。
- 現代アートにあるような、作品の中に内在している人類の願いや差別への叫びなどに着目し、鑑賞の中で学んでいくことが重要。時代や社会について考えるきっかけになり、課題や問題提起をしていける視点をもつことにもつながる
- 作品をどのように捉えていくのか、表現された世界をどのように読み解いていけばよいのか、鑑賞者を育成することが重要。鑑賞のプロセスの具体的手順や方法といった鑑賞の深化を発達段階を通して段階的に育てていくべき。事象を分析的に捉え、批判的に物事を捉える力はあらゆる教科・科目に通底する資質・能力である。
- 感性や感じ取る力は非常に重要。観察や鑑賞を通して心が動く体験を子供たちができるようにしていく必要があり、自分や他者の感情を自覚し受け止めることが大切。
- 【音楽】小学校の「曲や演奏のよさや楽しさ」「音楽を聴き深める」というキーワードは重要。一方、中学校では、思考力、判断力、表現力等に「評価しながら」が含まれるが、客観的な部分が前に出すぎているので、小学校と同じような形（「見いだしながら」）もありえるのではないか。
- 【音楽】「聴き深める」について、学習の向かうべき方向性が示されている。ただ、「味わって聴く」という表現には、音楽に浸るとか、全身体で聴くというニュアンスが含まれている。これまでも使ってきた「味わう」という文言が消えてしまうのは残念。
- 【図画工作】「生活や社会、文化と関わり」が入ったのは有意義。生活、社会、文化の視点を見方・考え方に取り入れることによって、作品や美術館、博物館、文化財などを教師が授業に取り入れる必然性が生まれる。時間軸が子供たちの中に自然に意識づけられると共に、鑑賞の意義や学ぶ意義が伝わりやすくなるのではないか。
- 【美術と図画工作】適切なタイミングで理解が深まったり新たな気づきが生まれたりする情報を提供することが不可欠。発達段階の話も出たが、どのような知識を伝えていけばよいのかという視点が現場では弱い。次の作品を見る時に鑑賞を深めて作品を深く味わう力に繋がってくる。

第1～4回芸術WGにおける主な意見⑭

【鑑賞】（つづき）

- 【書道】思考力、判断力、表現力等の「感じ取り」について、鑑賞の際は、書かれた言葉を読み取って理解し、自己と向き合い再度作品と対峙したり、時間をかけ何度も鑑賞したりすることで書の良さや美しさを理解できる。「感じ取り」としてしまうと、文頭の「書のよさや美しさを感じし」と似通ってしまうのではないか。
- 【音楽】A表現を「歌唱・器楽」「音楽づくり」に分けることは賛成。歌唱と器楽という垣根を越えた、新たな発想に基づく題材構想に期待。
- 【美術】「活用して作品等を読み解いていく」ことは鑑賞の技能となりうるのではないか。
- 【図画工作】鑑賞の技能を位置づけることは有意義と考えるが、図画工作・美術では技能を「創造的技能」としており、技能をテクニクと捉えられないようにすべき。「体を使う」とあるが、「体」よりも「身体」のほうが良いのではないか。音楽では「身体」を使っている。
- 【図画工作】感じ取ったことを他者に伝え共有することも鑑賞で必要な技能ではないか。
- 【美術】中学校美術の鑑賞における「実感を伴って理解している」について、子供たちの学校での姿をイメージしてみるとよいのではないか。例えば、中学３年生が美術館の作品を鑑賞した際、鑑賞を通して美術のおもしろさを再確認し、身近な美術を見てみたくなったという感想があった。高次の資質・能力について、子供たちのどのような姿に現れるのかを学校の先生方にわかりやすく伝えることが必要なのではないか。

第1～4回芸術WGにおける主な意見⑮

【豊かな社会の創造や幸福な人生】

- 創造性は、自分なりの意味や価値をつくりだすことに留まるのではなく、社会との関わりにおいてベクトルを外へ向けていくことが重要。
- 芸術系教科は感性や情操の育成につながる審美教育である。価値を実感できることにより積極的に学びに向かっていく力につながり、価値が生活や社会を豊かにすることにつながるということに実感がもてるようにすることが重要。
- 芸術を通して豊かな人間性を涵養し、創造性・感性を育み、情操を培っていくことは豊かな社会の創造において不可欠である。
- 伝統と文化や文化芸術の意義を明確に位置付ける必要がある。日本の文化と世界の文化を知り、比較して学んでいくことや多文化理解はこれからの社会に必要な資質・能力であり、生活や社会とのつながりにおいて芸術が幸福な人生や豊かな社会の創造に繋がることを、表現や鑑賞を通して実感をもって学習することが大事。
- 【音楽】見方・考え方の後段、「自分や他者にとっての意味や価値を見いだす」とあるが、高校では少し広げて他者を「社会」とし対象を明確にすることもありうる。学びに向かう力・人間性等の中で、「豊かな生活や社会を築いていく態度を養い」とあるので、具体的に示していくこともあり得るのではないかな。
- 【図画工作】造形美術の働きを位置づけることは賛成。自分、他者、自他の関係性や地域、社会、文化と対象に広がりがある。地域、社会、文化に対しての働きは、役に立つと狭義で捉え得られがちだが、図画工作科では、自分に対する働きがあつてこそ地域、社会、文化への働きも成立する。
- 【美術】「生活や社会、文化と関わり」の部分について、創造性を身に付けた結果、生活や社会の豊かさにつながるということについて目標での明記が必要ではないかな。
- 学びに向かう力・人間性等について、相手がどのような感性、考えで受け入れるかという、受け取る側を考えることが多様性を尊重することや社会に繋がっていくので、その点を強調してもよいのではないかな。
- 【美術】地域の文化や美術教育を子供に教えるのではなく、子供と一緒に教師も学ぶことを通して、日本人としての美しい生き方、豊かな生き方を理解できると考える。文化の理解を誤解して受け取られないように、知識の中に位置付けるのであれば、「美術の働きや美術文化を理解する」という文に「実感的に理解する」と追記できればよい。
- 【図工、美術、工芸】生活、社会、文化との関わりが示されているが、それぞれの教科・科目で関わりのニュアンスが異なるのではないかな。

第1～4回芸術WGにおける主な意見①⑥

【教科横断や連携の在り方】

- 概念理解は国際バカロレアの学びと共通していると感じている。教科は教科として学び、教科等横断的な学びは表面的なつながりではなく、本質的な概念で繋げていく
- 他教科にも汎用できる資質・能力について。現行学習指導要領には「知識を相互に関連付けて」と記載がある。双方向性の学習が重視されているが、他教科に影響を与えるだけでなく、他教科で身に付けた力を芸術系教科で使うこともあり得る。
- 芸術教育で育まれる他教科に汎用する資質・能力は、想像力、試行錯誤する力、挑戦する力、リスクをとる力、自ら問いを立て考える力、答えのない問いに最適解を見つけ出す力、多様な解を互いに認め合う力が考えられる。
- 芸術はSTEAMのAの役割として新たな気づきを生み出し、粘り強く解をまとめる教科としての関わりがふさわしく、探究的な学びを深めるためには、その側面から芸術系教科と他教科との連携が重要。子供たちの思い付きや失敗を受容する環境の醸成が大事
- 日本型のSTEAM教育をどうつくっていくか。STEAM発祥のアメリカと日本とは歴史や考え方が異なる。STEAM教育は教師自身のマインドセットの向上にもつながるのではないか
- STEAMは理科系に偏りすぎているのではないか。もっとAの学際性に着目してもよいのではないか。
- 【図画工作・美術】イノベーションに繋がる相互に関連付ける力が芸術系教科・科目の重要な資質・能力。作品に至るまでの過程を重視することが大切で、生活・総合的な学習の時間における探究のプロセスと図画工作・美術における探究・創造のプロセスの共通点・相違点踏まえながら、知識や技能を考えていくことが重要。
- 【メディア】映像分野は教科を繋ぐハブである。物語構成や言語表現での国語、社会課題を考える社会、観察としての理科、論理的思考としての数学、外国を意識したコミュニケーションとしての外国語など。芸術の他分野にも密接に関わる。
- 小中高全体で各教科・科目を俯瞰し、見方・考え方を再構築していくことも重要。学びの深まりについて、書道では小・中の国語科書写とのつながりがあることから国語科書写との連携が重要。文字文化の考え方を再整理する必要があるのではないか。
- 地域社会と学校をどう連携させていくかが重要。芸術系教科の重要性を地域社会にどう理解してもらうか。その上で、他教科との連携はこれまで以上に重要な視点になってくる

第1～4回芸術WGにおける主な意見①⑦

【その他】

- 現行の工芸の内容は、「身近な生活と工芸」及び「社会と工芸」により整理され、どのような視点に立って資質・能力を育成するかという学びの方向性を意識したものとなっており、今後一層進めていくことが必要。
- 高校においては、音楽・美術・工芸・書道と科目が分かれてしまうが、芸術教科全体として学ぶ意義を考えることは重要
- 高校のどの科目においても自分や社会にとって芸術がどのような意味や価値をもつのかを学ぶことは、人生を豊かに生きていく観点から重要
- 作品をつくっていくというプロセスの中に、創造性、批判的思考、問題解決能力、協働性、コミュニケーション能力、ICTリテラシーといった重要なスキル、能力の開発が含まれている
- 各科目の共通する中核的概念は見えてきそうだが、各論に入ったときにそれがどう結び付けられるか
- 構造化・表形式化をイメージするにあたり、現行学習指導要領解説の系統表のように発達段階ごとの系統をはっきりさせていくべき。見方・考え方は系統立てるのは難しく、シンプルに示していくべきではないか。
- 総則評価部会の構造化パターンにおいて示された、高次の資質・能力を「知識及び技能の統括的な理解」とすることについて、「理解」という言葉で文末をまとめることは芸術系教科の内容の特性を考えたときに適切かどうかと考える。
- 高等学校芸術科の教科目標が、各科目を繋ぎ合わせたものになっている。キーワードを抽象化してもう少し端的に短くできればよいのではないか。
- 【美術】学びに向かう力・人間性等において「心豊かな生活を」の生活の前に「社会」を記載してはどうか。
- 【図画工作】造形的な視点がどのようなことなのかを、もう一度再確認する必要があるのではないか。
- 【美術】現行の取組の内容は、造形性が主軸にある様に見える。造形性に収まらない現代美術は美術教育に組み入れられていないのではないかと感じている。
- 現代特有のメディアによる感情のコントロールやA I の進化といったメディア環境において、自分を取り巻く社会環境に対する批判的な思考が育まれるべきではないか。
- 【書道】見方・考え方について「文字や書」と改められているが、別々に取り上げることで、文字と書が別物であるような印象を与えるのではないか。デジタル化により、筆で文字を書く手段以外も考えられる中で、文字や書が何を指しているのか混乱を生むのではないか。
- 文頭にある「捉えたり」について、知的に分析するというイメージもあるので、「感覚的に捉えたり、感じたり」とした方が正確に伝わるのではないか。
- 並行パターンはⅠ～Ⅲの資質の深まりを一見してとらえやすいが、思考力、判断力、表現力等の統合的な発揮と知識及び技能の統合的な理解を捉えるのは並行パターンでは難しいのではないか。例えば、高等学校の科目の履修が必須履修科目であるⅠを付した科目で終える生徒が多いということをふまれば、高等学校芸術科においては、全体を並列パターンで示していく検討の余地もあるのではないか。
- 「自分や他者にとって意味や価値を見いだす」という部分を、目標のどこかに位置付けられないか。目標が難しければ、高次の資質・能力として、知識及び技能の統合的な理解の部分にそれがあたるか。

第1～4回芸術WGにおける主な意見⑮

【その他】(つづき)

- 高等学校芸術科全体の見方・考え方が、各教科の要素を組み合わせた形で提示されている。この部分を、教育課程全体における芸術教科において、何を学ぶのか、どのような方向性なのか明確にさせる必要がある。
- 【図画工作】区分の示し方は賛成。「造形遊びをする」「絵や立体、工作に表す」についてはもう少し抽象的な内容でもいいのでは。
- 【美術】区分が「自分と美術」「身近な生活や社会と美術」という分け方は、教師もこの分け方は違和感は少ないのではないか。
- 【美術】区分はわかりやすく示されている。「自分と美術」「身近な生活や社会」は思考の過程の違いで分けられているので、授業が作りやすい。A表現とB鑑賞が同じ分け方なので一体化しやすいのもよい。
- 【高校美術】「自分と美術」「社会と美術」という区分に違和感。自分を考える際には社会を考えることにつながるし、社会を考えるときにも個人（自分）の考えは重要になる。分けることによって行き来を断つことになってしまうのではないか。
- 【美術】美術の区分について妥当な判断と考えるが、今回の改定の目玉でもあるので、十分に時間をかけて議論するべき。
- 中一ギャップ解消のため、小学校と中学校とのつながりを大切に考えるべき。
- つくって終わり、表現して終わりではなく、展示や発表等でのプレゼン、メッセージを発信するかが高度なフェーズとしてある。表現して伝える、といったことも入れられないか。
- 高次の資質・能力の内容について、美術においては、作品を企画し構想するところから制作や発表にいたるまでの創造的活動の間で、高次の様々な資質・能力が求められる。
- 先が読めない時代だからこそ、問題解決能力だけではなく、問題を見付け提起する力、批判的（クリティカル）な思考力も、高次の資質・能力に入れてはどうか。
- 【音楽】「見方・考え方」について、現行より広く、音楽になる前の音や事象をとらえて考えるのはよいと思う。
- 高校工芸について。美術は絵画や広告、メディアなど、表現のジャンルで内容を分けているのに対して、工芸では以前から学びの方向性で区分を設けていた。工芸には技法がたくさんある。それらの技法ごとに記載を分けるのではなく、方向性のみを示すことが従来から続いているが、その方針で成功しているように感じる。
- 「自分と美術」「社会と美術」の区分は近代から現代の美術史からみて適当ではないか。「社会と美術」について、60年代以降はジェンダーや環境などのテーマが増えた。2010年ごろからはソーシャルプラクティスなどが実践されている。伝統的な絵画や彫刻の手法と変わり、アーティストと観客の区別がなくなったり、討論や教育が行われたりするという、現代美術における社会とのかかわりの手法を学校教育に取り入れるのもアリではないか。
- 【書道】示し方の基本的なまとまりについて、書道Ⅰ,Ⅱ,Ⅲと展開する中で見えてくる学びを踏まえて、高次の資質能力を検討するものではないか。学習指導要領を表形式にしていことの利点であり、新たに高次の資質能力を設けることの意義ではないか。書道Ⅰ,Ⅱ,Ⅲの内容を早期に示していただきたい。
- 【書道】学習評価について。学校で評価基準を決める際、「高次の資質・能力」が評価とどのようにかわるのかという疑問が現場から出てくるのではないか。

第1～4回芸術WGにおける主な意見①⁹

【その他】（つづき）

- 【書道】高次の資質・能力の示し方について、芸術科書道では分野の区分を設けない案が示されているのは他の芸術系教科とは異なるが、現場の教員にとってわかりやすいと思うのでこれで適切だと思う。
- 高次の資質・能力と発達の段階の関係をどう考えるか。小学校の場合 6 年間があるが、低学年から高学年まで、そこで達成される姿を一言で表すのは難しい。
- 表形式にするにあたり、罫線で区切られることで、各領域が分断される印象がある。点線で示すということも考えられるか。
- 区分を「学習の方向性」と捉えるのは良いと感じた。
- 小学校の図画工作は学級担任が行うことを踏まえると目標の表し方はわかりやすい。
- 目標中の「見方や感じ方」と、「見方・考え方」の「見方」との違いを整理すべきではないか。
- 具体的な文言を議論するフェーズに入ってそれぞれの科目の違いや科目間の統一性が見えてきたが、「高次の資質・能力」、「見方・考え方」、「目標」の関係性をもう少し明確にしないと次の内容の議論に進めないのではないか。